

令和 7 年度

第 2 回 市政モニターアンケート報告書

新居浜市企画部秘書課

1 アンケートの概要

調査対象者	令和7年度 市政モニター 175人
調査期間	令和7年9月1日（月）～令和7年9月16日（火）
調査方法	郵送またはインターネット
テーマ	③ 新居浜市民の健康意識に関する調査 ④ こども・若者支援政策にかかるアンケート調査 ⑤ 食品ロスの削減について

回答率

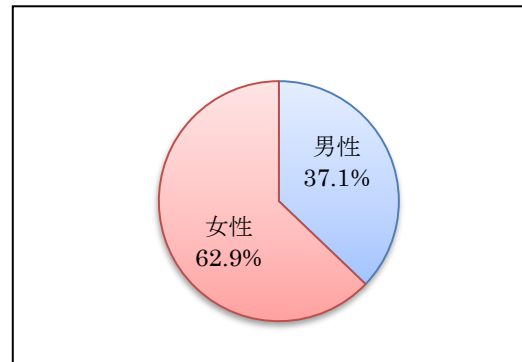
テーマ	モニター数（人）	回答者数（人）	回答率
③	175	166	94.9%
④	175	155	88.6%
⑤	175	157	89.7%

2 市政モニター内訳（※令和7年9月1日時点）

<性別>

（単位：人）

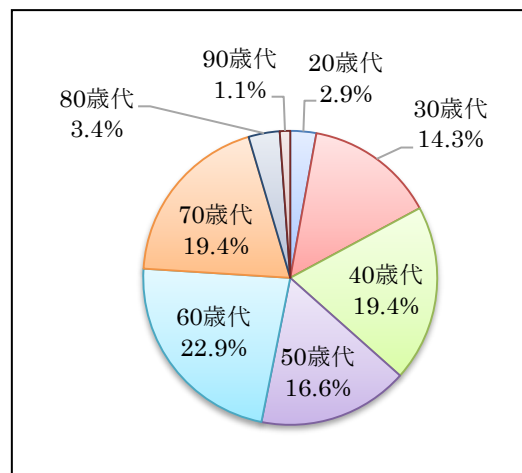
男性	65 (37.1%)
女性	110 (62.9%)
合計	175 (100.0%)



<年代別>

（単位：人）

	男性	女性	合計
20歳代	2	3	5 (2.9%)
30歳代	8	17	25 (14.3%)
40歳代	9	25	34 (19.4%)
50歳代	7	22	29 (16.6%)
60歳代	15	25	40 (22.9%)
70歳代	18	16	34 (19.4%)
80歳代	4	2	6 (3.4%)
90歳代	2	0	2 (1.1%)

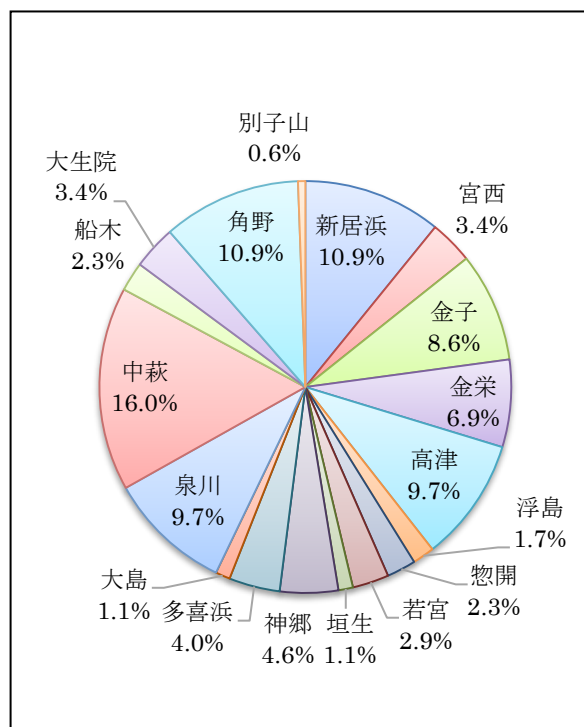


※年齢は令和7年4月1日時点

＜居住地域別＞

(単位：人)

	男性	女性	合計
新居浜	8	11	19 (10.9%)
宮西	1	5	6 (3.4%)
金子	7	8	15 (8.6%)
金栄	0	12	12 (6.9%)
高津	10	7	17 (9.7%)
浮島	3	0	3 (1.7%)
惣開	1	3	4 (2.3%)
若宮	1	4	5 (2.9%)
垣生	1	1	2 (1.1%)
神郷	5	3	8 (4.6%)
多喜浜	2	5	7 (4.0%)
大島	1	1	2 (1.1%)
泉川	6	11	17 (9.7%)
中萩	10	18	28 (16.0%)
船木	1	3	4 (2.3%)
大生院	4	2	6 (3.4%)
角野	3	16	19 (10.9%)
別子山	1	0	1 (0.6%)



＜回答方法 種別＞

(単位：人)

郵送モニター	55 (31.4%)
Eメールモニター	120 (68.6%)
合計	175 (100.0%)

＜選任方法 種別＞

(単位：人)

公民館推薦	45 (25.4%)
公募	130 (74.6%)
合計	175 (100.0%)

※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

3 調査結果

テーマ③ 新居浜市民の健康意識に関する調査について

【調査趣旨】

愛媛県では、心不全による死亡率が女性全国1位、男性2位という状況です。心不全は長く付き合う病気で、入退院を繰り返しながら次第に体力やQOLが低下していくため、介護、医療経済の観点でも大きな社会課題となっています。心不全や、その背景にある高血圧は、新居浜市においても健康課題の一つです。

また、新居浜市の死因別死亡割合の1位はがんであり、特に男性では胃がん・肺がん、女性では肺がん・肝臓がんの死亡率が全国平均より高い状況です。

新居浜市が目指す健康寿命の延伸を実現するためには、より若い世代からの生活習慣病の発症予防及び重症化予防が大変重要です。そのためには、運動、栄養等の生活改善や、特定健診、がん検診、人間ドック等を受診することによる疾病の早期発見・早期治療、重症化予防が重要となります。

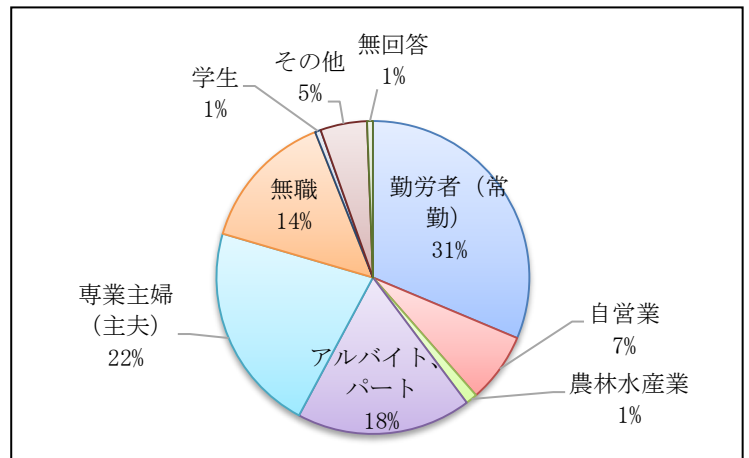
今回のアンケートでは、市民の皆さんの健診受診状況や健診等に関する意識や意見を伺い、さらに、心臓を悪くする危険因子の一つである高血圧症について実態を把握することによって、今後の健康づくりに活用していきたいと考えています。

(担当課：保健センター)

(※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略)

問2. あなたの職業を教えてください。【必須】(1つ選択)

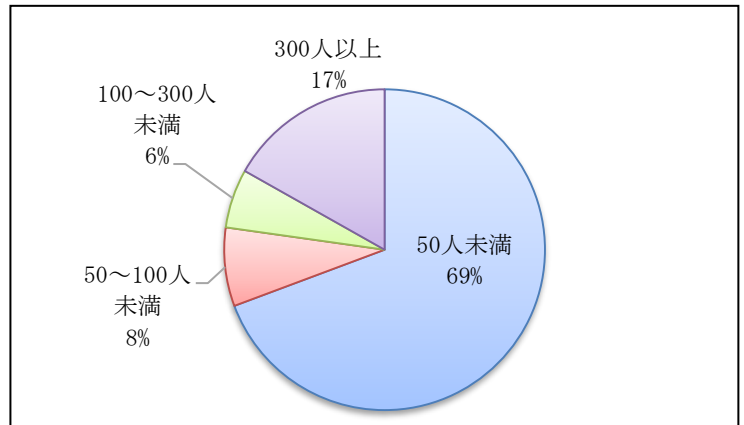
1. 勤労者（常勤）	52 人
2. 自営業	12 人
3. 農林水産業	2 人
4. アルバイト、パート	30 人
5. 専業主婦（主夫）	36 人
6. 無職	24 人
7. 学生	1 人
8. その他	8 人
無回答	1 人
合 計	166 人



「1. 勤労者（常勤）」（52人）と答えた方が最も多く31%で、次いで、「5. 専業主婦（主夫）」（36人）22%、「4. アルバイト、パート」（30人）18%が多いという結果となりました。

問3. 問2で「1. 勤労者（常勤）」「2. 自営業」「3. 農林水産業」「4. アルバイト、パート」を選んだ方にお聞きします。職場（事業所）の従業員数は何人ですか。（1つ選択）

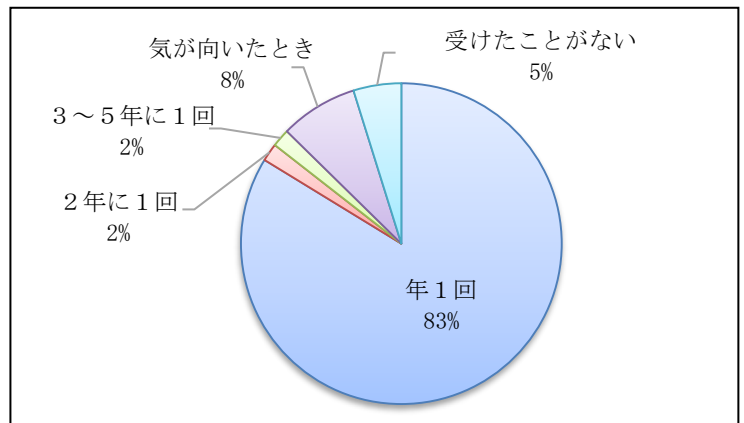
1. 50 人未満	70 人
2. 50～100 人未満	8 人
3. 100～300 人未満	6 人
4. 300 人以上	17 人



「1. 50 人未満」（70 人）と答えた方が全体の 69%で約 7 割を占める結果となりました。

問4. 定期的に健康診査（血液検査）を受診していますか。（市の健診、職場健診、人間ドック、脳ドックを含む） 【必須】（1つ選択）

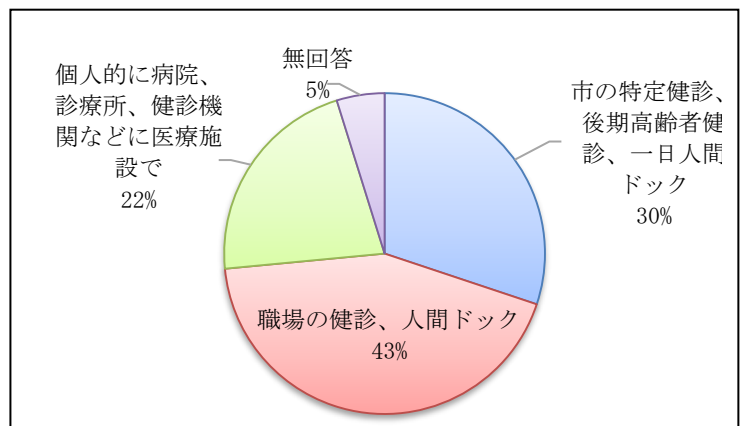
1. 年1回	139 人
2. 2年に1回	3 人
3. 3～5年に1回	3 人
4. 気が向いたとき	13 人
5. 受けたことがない	8 人



「1. 年1回」（139 人）と答えた方が最も多く、全体の約 8 割を占める結果となりました。

問5. 問4で「1. 年1回」「2. 2年に1回」「3. 3～5年に1回」「4. 気が向いたとき」を選んだ方にお聞きします。どこで健康診査（血液検査）を受診していますか。（1つ選択）

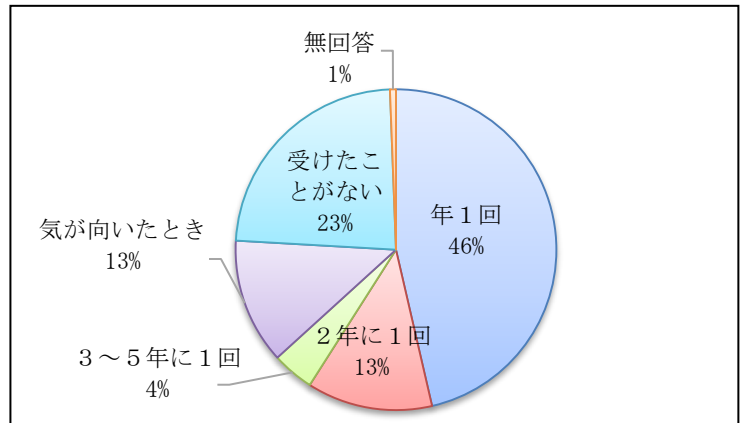
1. 市の特定健診、後期高齢者健診、一日人間ドック	50 人
2. 職場の健診、人間ドック	72 人
3. 個人的に病院、診療所、健診機関などに医療施設で	36 人
無回答	8 人



「2. 職場の健診、人間ドック」（72 人）と答えた方が最も多く全体の 43%を占める結果となりました。

問6. 定期的にがん検診を受診していますか。(市の健診、職場健診、人間ドックを含む)【必須】
(1つ選択)

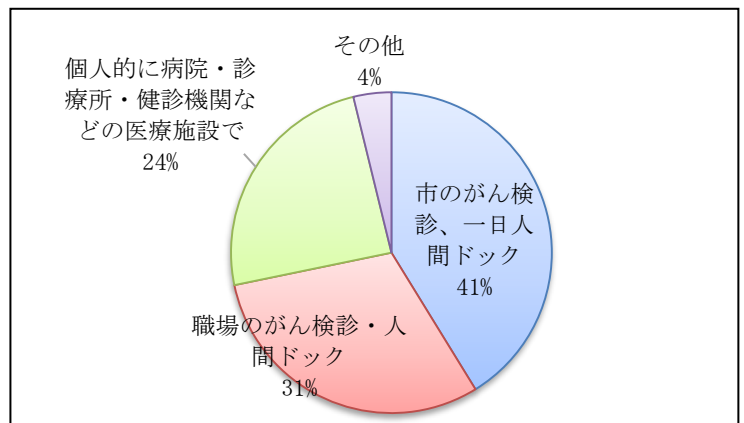
1. 年1回	77 人
2. 2年に1回	21 人
3. 3～5年に1回	7 人
4. 気がむいたとき	21 人
5. 受けたことがない	39 人
無回答	1 人
合 計	166 人



「1. 年1回」(77 人)と答えた方が最も多く全体の半数近くの46%を占める結果となりました。一方、「5. 受けたことがない」(39 人)と答えた方も全体の23%いるという結果となりました。

問7. 問6で「1. 年1回」「2. 2年に1回」「3. 3～5年に1回」「4. 気がむいたとき」を選んだ方にお聞きします。どこでがん検診を受診していますか。(1つ選択)

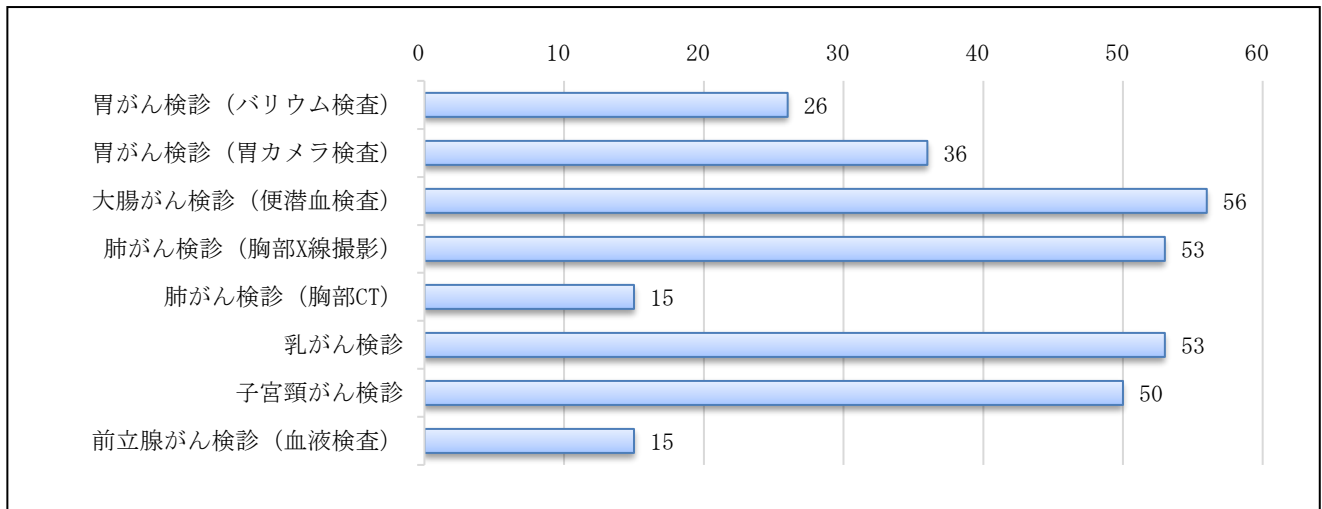
1. 市のがん検診、1日人間ドック、脳ドック	54 人
2. 職場のがん検診・人間ドック	40 人
3. 個人的に病院・診療所・健診機関などの医療施設で	32 人
4. その他	5 人



「1. 市のがん検診、1日人間ドック、脳ドック」(54 人)、「2. 職場のがん検診・人間ドック」(40 人)、「3. 個人的に病院・診療所・健診機関などの医療施設で」(32 人)それぞれ大差なく全体を3分する結果となりました。

問8. 「1. 年1回」「2. 2年に1回」「3. 3～5年に1回」「4. 気がむいたとき」を選んだ方にお聞きします。この1年間にがん検診(市のがん検診や職場健診、人間ドックなど)を受けましたか。受けた項目をお答えください。 ※この1年間とは令和6年4月～現在までの期間のことを言います。ただし、乳がん・子宮頸がん検診については、令和5年4月～現在までの2年間で受けた方がお答えください。(複数選択)

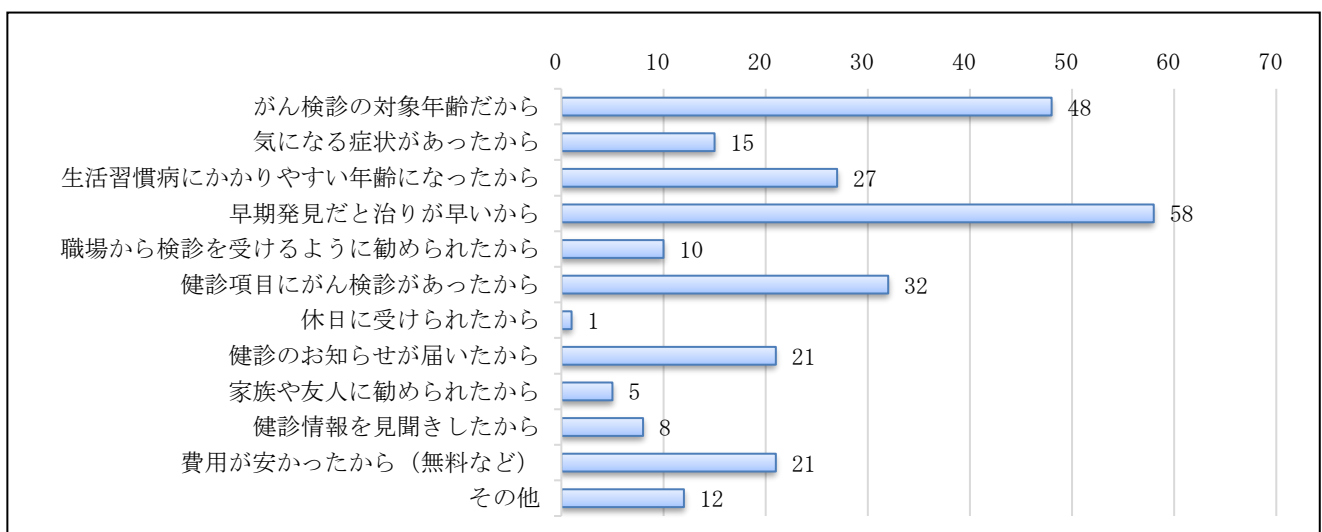
1. 胃がん検診(バリウム検査)	26 人	5. 肺がん検診(胸部CT)	15 人
2. 胃がん検診(胃カメラ検査)	36 人	6. 乳がん検診	53 人
3. 大腸がん検診(便潜血検査)	56 人	7. 子宮頸がん検診	50 人
4. 肺がん検診(胸部X線撮影)	53 人	8. 前立腺がん検診(血液検査)	15 人



「3. 大腸がん検診（便潜血検査）」（56人）と答えた方が最も多く、次いで「4. 肺がん検診（胸部X線撮影）」（53人）、「6. 乳がん検診」（53人）となっています。

問9. 問6で「1. 年1回」「2. 2年に1回」「3. 3～5年に1回」「4. 気がむいたとき」を選んだ方にお聞きします。がん検診を受けた理由は何ですか。（複数選択）

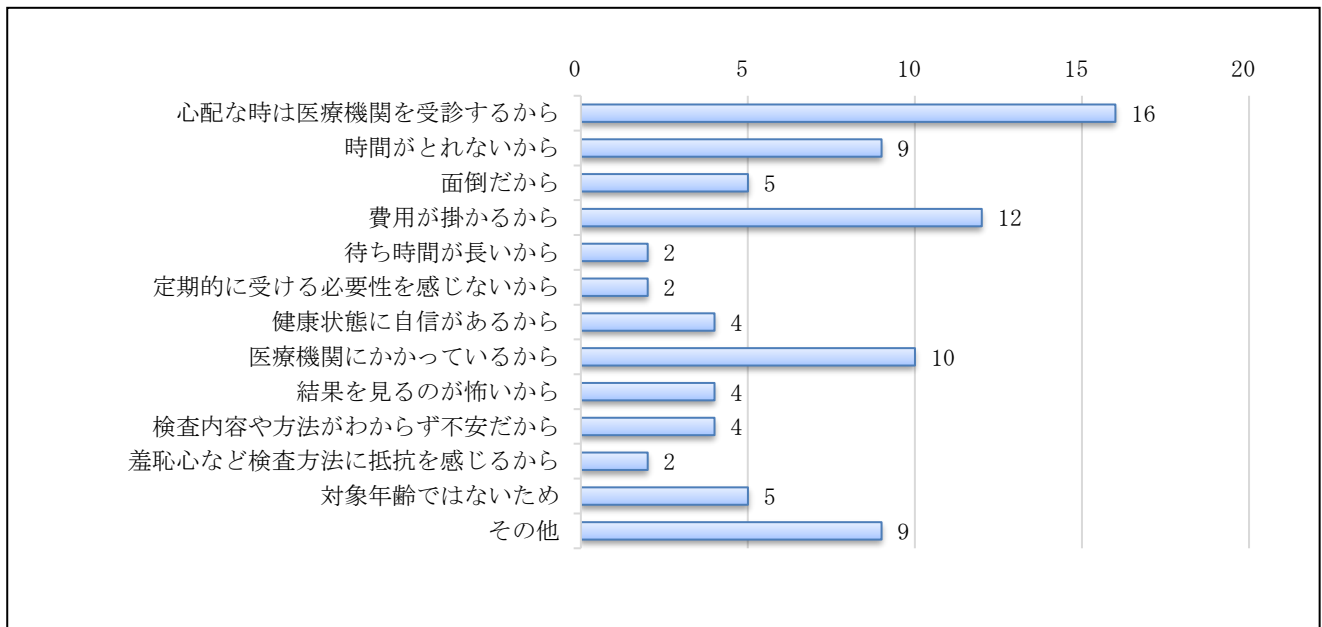
1. がん検診の対象年齢だから	48人	7. 休日に受けられたから	1人
2. 気になる症状があったから	15人	8. 健診のお知らせが届いたから	21人
3. 生活習慣病にかかりやすい年齢になったから	27人	9. 家族や友人に勧められたから	5人
4. 早期発見だと治りが早いから	58人	10. 健診情報を見聞きしたから	8人
5. 職場から検診を受けるように勧められたから	10人	11. 費用が安かったから（無料など）	21人
6. 健診項目にがん検診があったから	32人	12. その他	12人



定期的ながん検診を受診されている方ががん検診を受けた理由としては、最も多いのが「4. 早期発見だと治りが早いから」（58人）で、次いで、「1. がん検診の対象年齢だから」（48人）、「6. 健診項目にがん検診があったから」（32人）となっています。

問10. 問6でがん検診を「5. 受けたことがない」と答えた方にお聞きします。がん検診を受けていない理由は何ですか。(複数選択)

1. 心配な時は医療機関を受診するから	16 人	8. 医療機関にかかっているから	10 人
2. 時間がとれないから	9 人	9. 結果を見るのが怖いから	4 人
3. 面倒だから	5 人	10. 検査内容や方法がわからず不安だから	4 人
4. 費用が掛かるから	12 人	11. 羞恥心など検査方法に抵抗を感じるから	2 人
5. 待ち時間が長いから	2 人	12. 対象年齢ではないため	5 人
6. 定期的に受ける必要性を感じないから	2 人	13. その他	9 人
7. 健康状態に自信があるから	4 人		

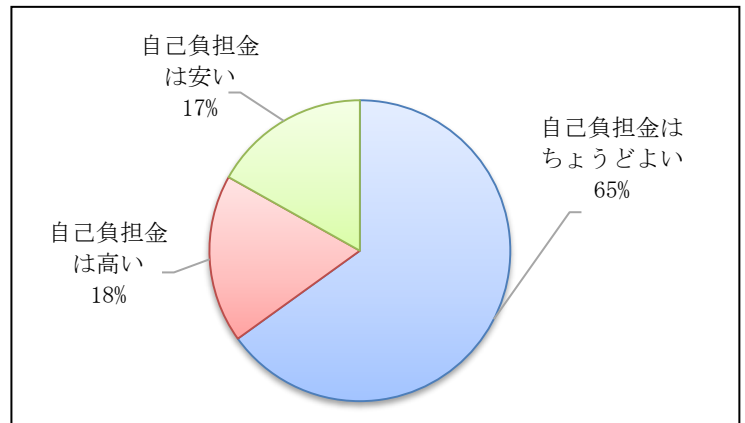


定期的ながん検診を受診されていない方の理由としては、「1. 心配な時は医療機関を受診するから」(16人)が最も多く、そのほか「4. 費用が掛かるから」(12人)、「8. 医療機関にかかっているから」(10人)が多く挙げられています。

問 1 1. がん検診の自己負担金についてのご意見をお聞かせください。(1つ選択)

(参考) 自己負担金：胃がん 1,000 円 肺がん (X線) 500 円 大腸がん 500 円
乳がん 1,000 円 子宮頸がん 1,000 円

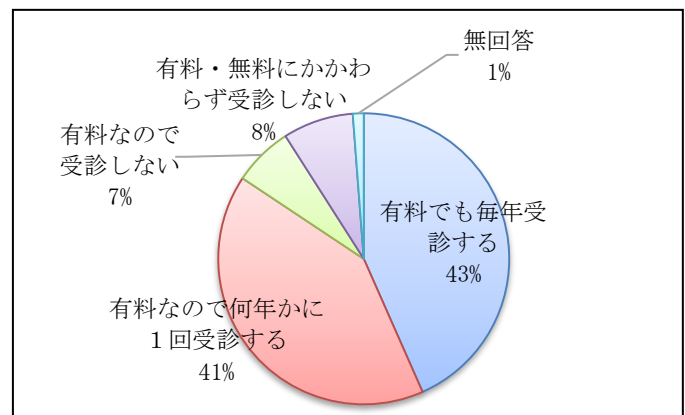
1. 自己負担金はちょうどよい	108 人
2. 自己負担金は高い	30 人
3. 自己負担金は安い	28 人
合計	166 人



「1. 自己負担金はちょうどよい」(108 人)と答えた方が 65%で半数以上となり、「2. 自己負担金は高い」(30 人)、「3. 自己負担金は安い」(28 人)と答えた方を大きく上回る結果となりました。

問 1 2. がん検診の自己負担金がある場合でも、がん検診を受診しますか。(1つ選択)

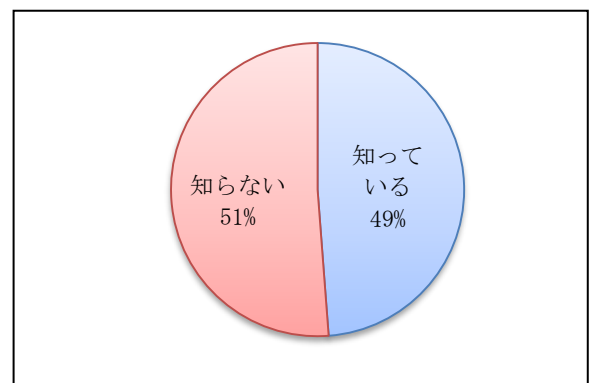
1. 有料でも毎年受診する	72 人
2. 有料なので何年かに 1 回受診する	68 人
3. 有料なので受診しない	11 人
4. 有料・無料にかかわらず受診しない	13 人
無回答	2 人
合 計	166 人



「1. 有料でも毎年受診する」と答えた方が 72 人で、43%と最も多く、次いで「2. 有料なので何年かに 1 回受診する」と答えた方が 68 人で 41%と、受診すると答えた方が全体の 84%いるという結果となっています。

問 1 3. 集団健診の WEB 予約ができることを知っていますか。【必須】(1つ選択)

1. 知っている	81 人
2. 知らない	85 人
合 計	166 人

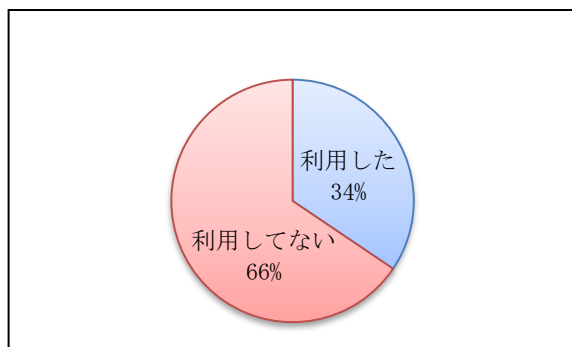


「2. 知らない」と答えた方が 85 人で、「1. 知っている」と答えた方の 81 人を 10%ほど上回る結果となっています。

問14. 問13で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。WEB予約を利用しましたか。(1つ選択)

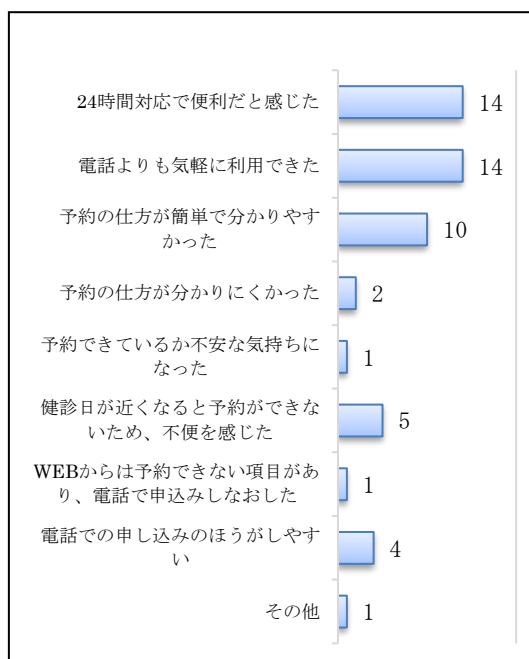
1. 利用した	31 人
2. 利用していない	59 人

「2. 利用していない」と答えた方が59人で全体の66%を占める結果となっています。



問15. 問14で「1. 利用した」と答えた方にお聞きします。利用しての感想をお聞かせください。(複数選択)

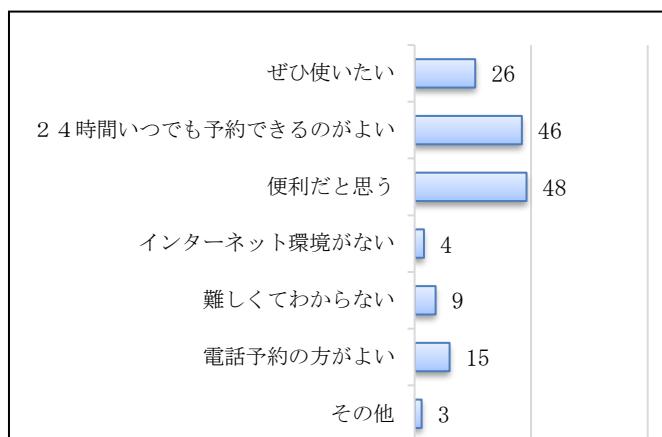
1. 24時間対応で便利だと感じた	14 人
2. 電話よりも気軽に利用できた	14 人
3. 予約の仕方が簡単で分かりやすかった	10 人
4. 予約の仕方が分かりにくかった	2 人
5. 予約できているか不安な気持ちになった	1 人
6. 健診日が近くなると予約ができないため、不便を感じた	5 人
7. WEBからは予約できない項目があり、電話で申込みしなおした	1 人
8. 電話での申し込みのほうがしやすい	4 人
9. その他	1 人



「1. 24時間対応で便利だと感じた」(14人)、「2. 電話よりも気軽に利用できた」(14人)、「3. 予約の仕方が簡単で分かりやすかった」(10人)が多く挙げられました。

問16. 問13で「2. 知らない」と答えた方にお聞きします。集団健診のWEB予約についてどのように思いますか。(複数選択)

1. ぜひ使いたい	26 人
2. 24時間いつでも予約できるのがよい	46 人
3. 便利だと思う	48 人
4. インターネット環境がない	4 人
5. 難しくてわからない	9 人
6. 電話予約の方がよい	15 人
7. その他	3 人

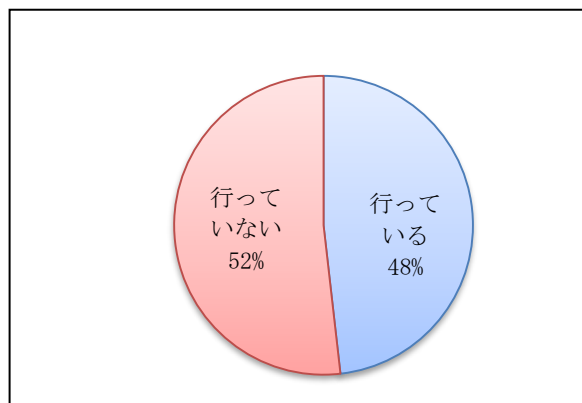


集団健診のWEB予約については「3. 便利だと思う」(48人)が最も多く、次いでほぼ同数で「2. 24時間いつでも予約できるのがよい」(46人)が多く挙げられました。

問17. あなたは1日延べ30分以上の運動を、週2日以上行っていますか。(1つ選択)

1. 行っている	80人
2. 行っていない	86人
合計	166人

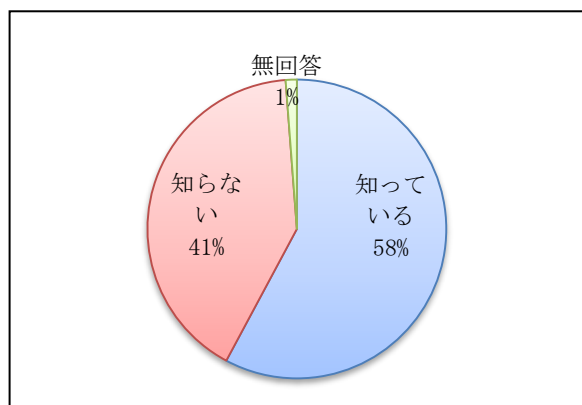
「2. 行っていない」(86人)と答えた方がわずかに多く、全体の52%という結果となりました。



問18. 一日の歩数が男性9,000歩、女性8,000歩(65歳以上は男性7,000歩、女性6,000歩)で生活習慣病予防に効果的であることをご存知ですか。(1つ選択)

1. 知っている	96人
2. 知らない	68人
無回答	2人
合計	166人

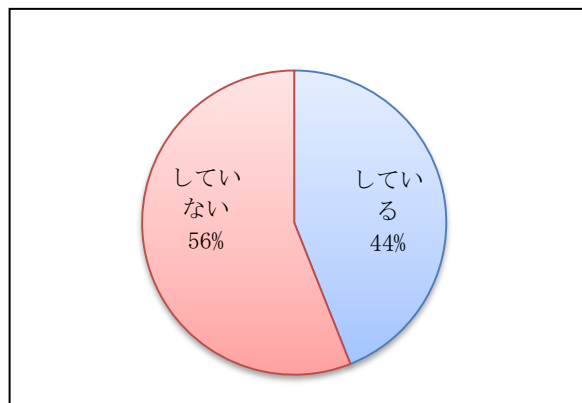
「1. 知っている」(96人)と答えた方が58%で、「2. 知らない」(68人)と答えた方が41%となり、生活習慣病予防に効果的な歩数を知っている方が多いという結果となりました。



問19. 毎日歩数を計測していますか?(1つ選択)

1. している	73人
2. していない	93人
合計	166人

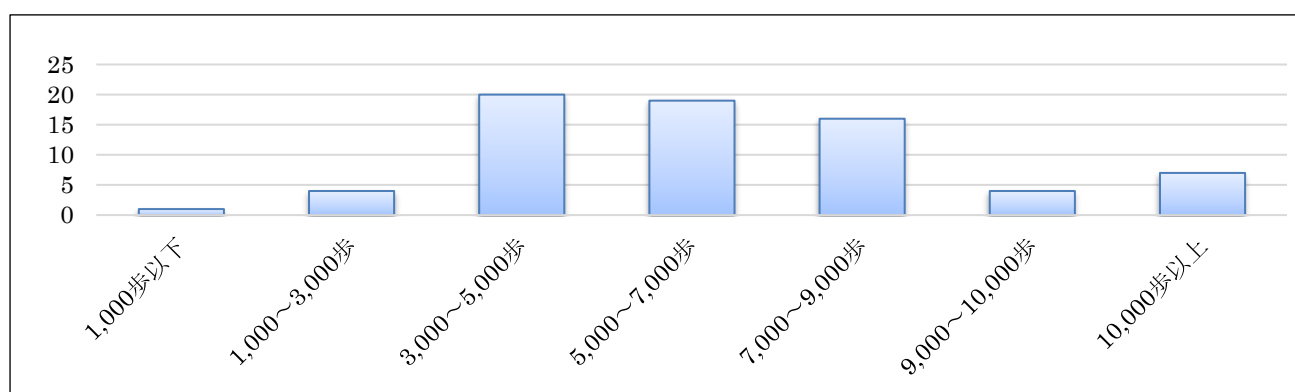
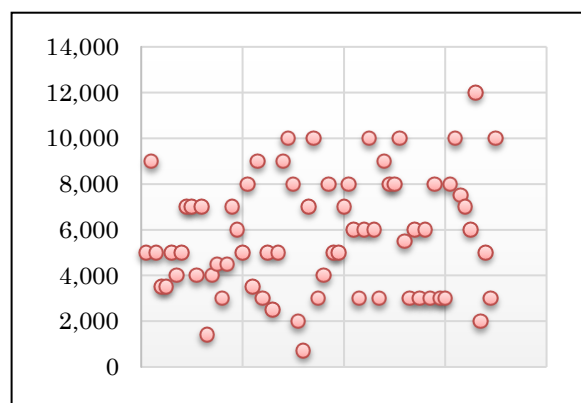
毎日の歩数計測は「2. していない」(93人)の人が56%で、半数以上の方が計測していない結果となりました。



問 20. 問 19 で「1. している」と答えた方にお聞きします。1 日の平均歩数を教えてください。(数値記入)

回答者数	71 人
平均歩数	5,748 歩
最大歩数	12,000 歩
最小歩数	700 歩

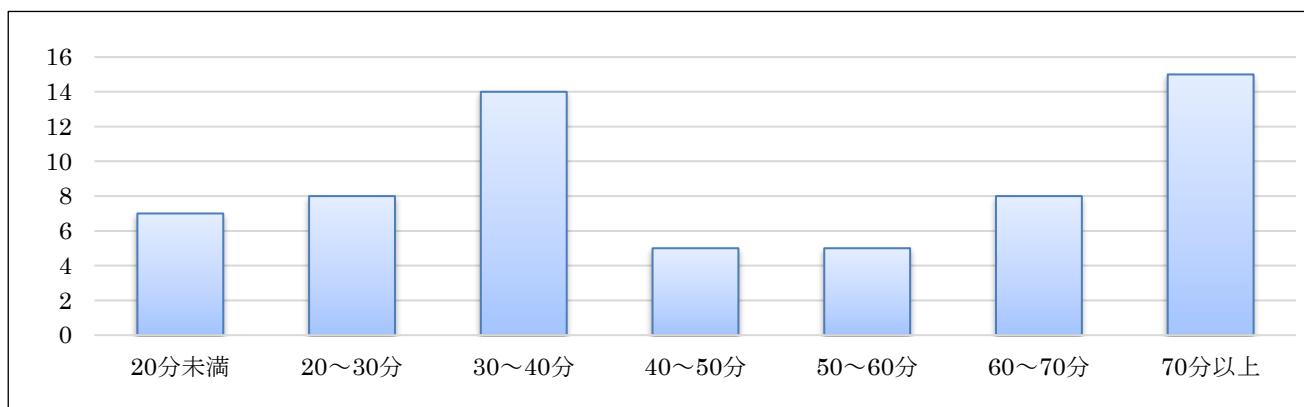
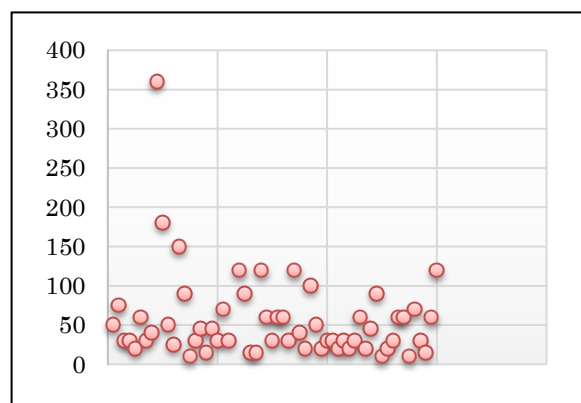
最も多い回答は 3,000 歩 (11 人) で、次いで 5,000 歩 (10 人)、8,000 歩 (8 人) が多く挙げられました。全体の平均は 5,748 歩でした。



問 21. 毎日歩いている時間はどのくらいですか。不明な方、意識して歩いていない方は 0 分とお答えください。(数値記入)

回答者数 (0 回答含まず)	59 人
平均時間	56 分
最大歩行時間	360 分
最小歩行時間	10 分

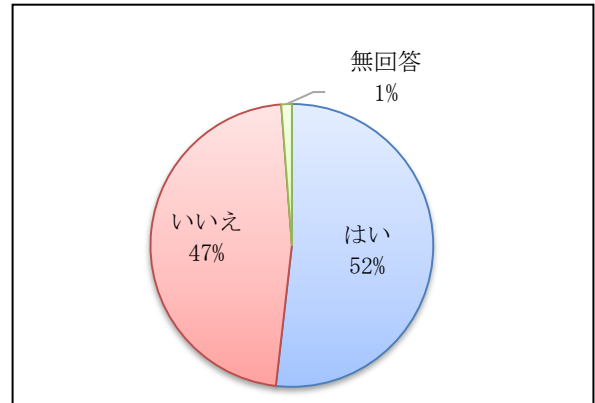
最も多い回答は 30 分 (14 人) で、次いで 60 分 (8 人) が多い結果となりました。平均は 56 分でした。



問 2 2. 睡眠によって十分に休養ができていると感じますか。 【必須】（1つ選択）

1. はい	86 人
2. いいえ	78 人
無回答	2 人
合計	166 人

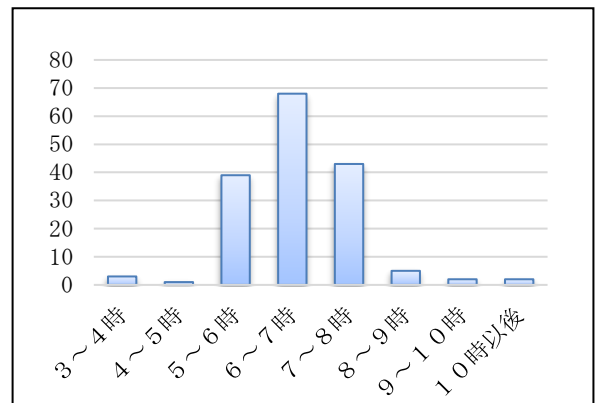
睡眠によって十分に休養ができていると感じている方は 86 人で全体の 52% いる一方で、十分に休養できていないと感じている方もほぼ近い人数の 78 人で、47% という結果となりました。



問 2 3. 起床時間は平均して何時ごろですか。 【必須】（数字記入）

回答者数	163 人
最も早い時刻	3 時
最も遅い時刻	23 時
最も多い時間帯	6～7 時

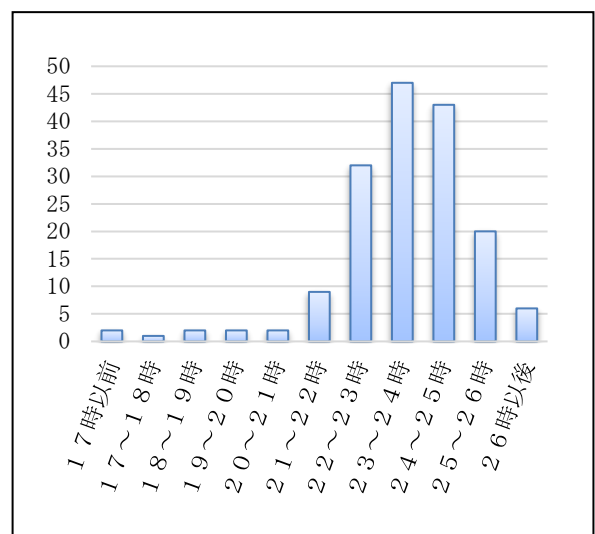
起床時間の平均として最も多い時間帯は 6～7 時という結果となりました。



問 2 4. 就寝時間は平均して何時ごろですか。 【必須】（数字記入）

回答者数	166 人
最も早い時刻	6 時
最も遅い時刻	28 時（4 時）
最も多い時間帯	23～24 時

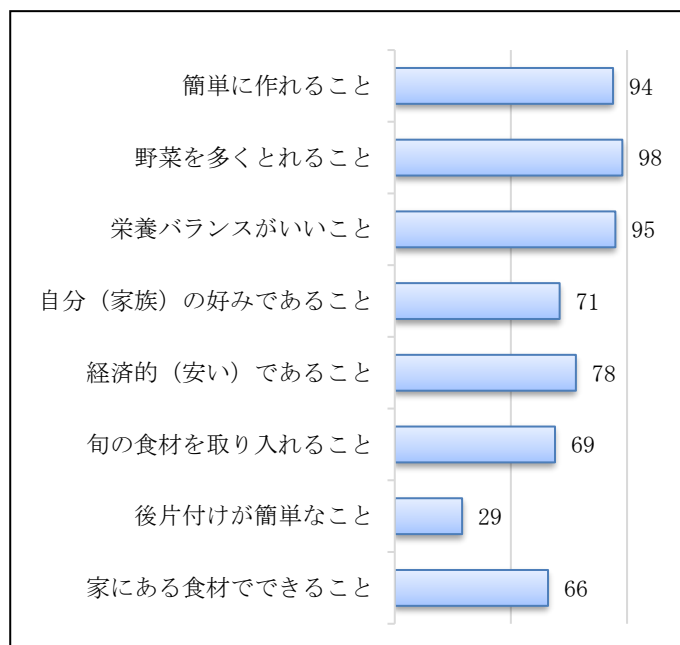
就寝時間の平均として最も多い時間帯は 23～24 時という結果となりました。



問 2 5．食事をするとき（献立を決めるとき）に重要視していることは何ですか。（複数選択）

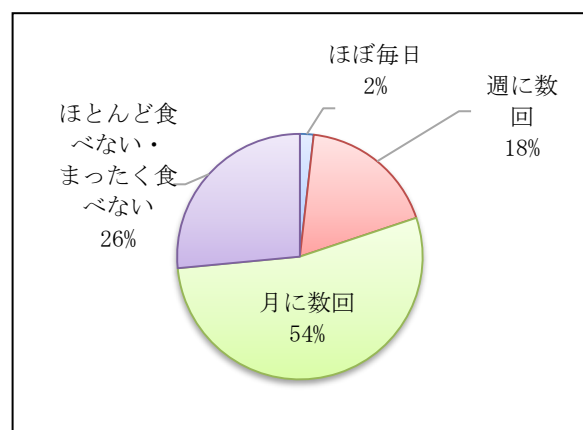
1. 簡単に作れること	94 人
2. 野菜を多くとれること	98 人
3. 栄養バランスがいいこと	95 人
4. 自分（家族）の好みであること	71 人
5. 経済的（安い）であること	78 人
6. 旬の食材を取り入れること	69 人
7. 後片付けが簡単なこと	29 人
8. 家にある食材でできること	66 人

多く選ばれたのが「2. 野菜を多くとれること」（98 人）」と「3. 栄養バランスがいいこと」（95 人）」と「1. 簡単に作れること」（94 人）」という結果となりました。



問 2 6．インスタント食品（即席めん等）はどのくらい利用しますか。（1つ選択）

1. ほぼ毎日	3 人
2. 週に数回	30 人
3. 月に数回	89 人
4. ほとんど食べない・まったく食べない	44 人
合 計	166 人

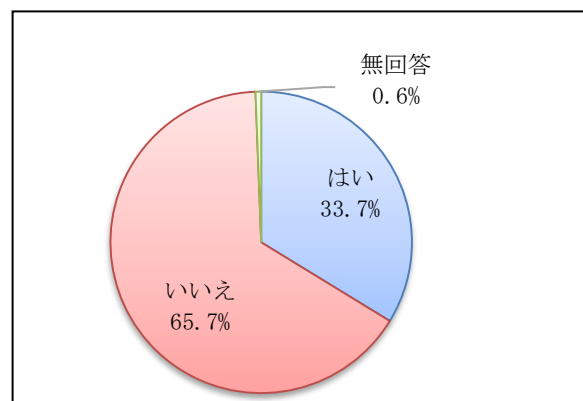


「3. 月に数回」（89 人）と答えた方が 54% で最も多く、次いで「4. ほとんど食べない・まったく食べない」（44 人）が 26%、「2. 週に数回」（30 人）が 18% という結果となりました。

問 2 7．普段から血圧を計測して把握していますか？（1つ選択）

1. はい	56 人
2. いいえ	109 人
無回答	1 人
合 計	166 人

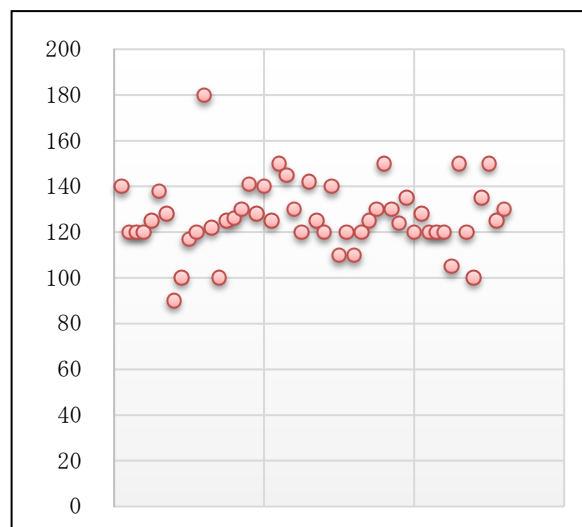
「2. いいえ」（109 人）と答えた方が全体の 65.7% で普段から血圧を計測して把握している方は少ないという結果となりました。



問 28. 問 27で「1. はい」と答えた方（普段から血圧を測定している方）にお聞きします。あなたの普段の最高血圧を教えてください。不明な方、回答したくない方は空白にしてください。（数値記入）

回答者数	51 人
平均値	127 mmHg
最大値	180 mmHg
最小値	90 mmHg

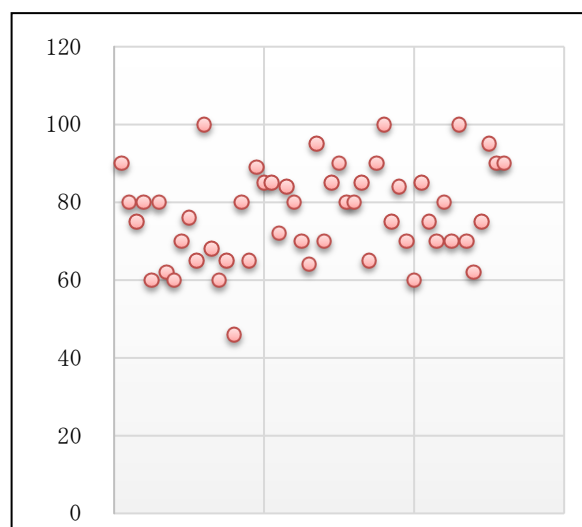
120～140 mmHg の間の多くが分布している結果となりました。



問 29. 問 27で「1. はい」と答えた方（普段から血圧を測定している方）にお聞きします。あなたの普段の最低血圧を教えてください。不明な方、回答したくない方は空白にしてください。（数値記入）

回答者数	52 人
平均値	77 mmHg
最大値	100 mmHg
最小値	46 mmHg

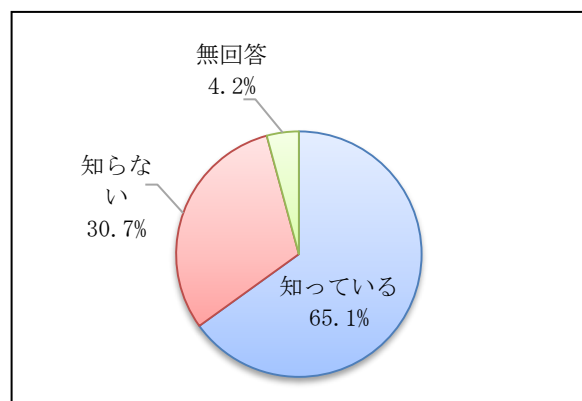
60～80 mmHg の間の多くが分布している結果となりました。



問 30. 正常な血圧を知っていますか？（1つ選択）

1. 知っている	108 人
2. 知らない	51 人
無回答	7 人
合 計	166 人

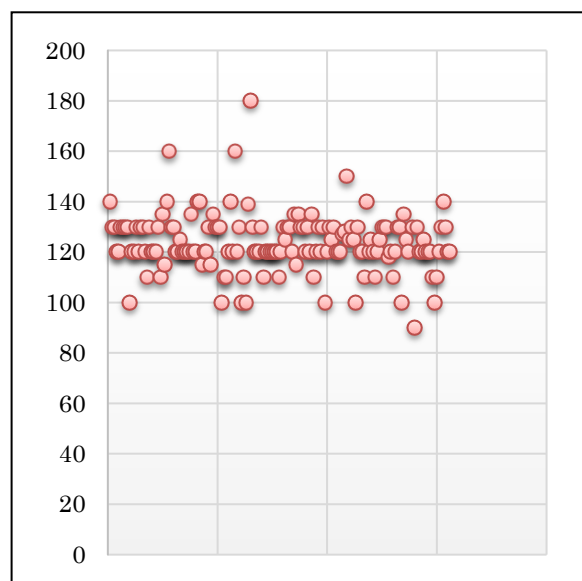
「1. 知っている」（108 人）と答えた方が全体の 65.1%で正常な血圧を把握されている方が多いという結果となりました。



問３１．正常な最高血圧はいくつくらいだと思いますか？（正常な血圧値をご存知ない方も大体の予想でお答えください。）（数値記入）

回答者数	155 人
平均値	124 mmHg
最大値	180 mmHg
最小値	90 mmHg

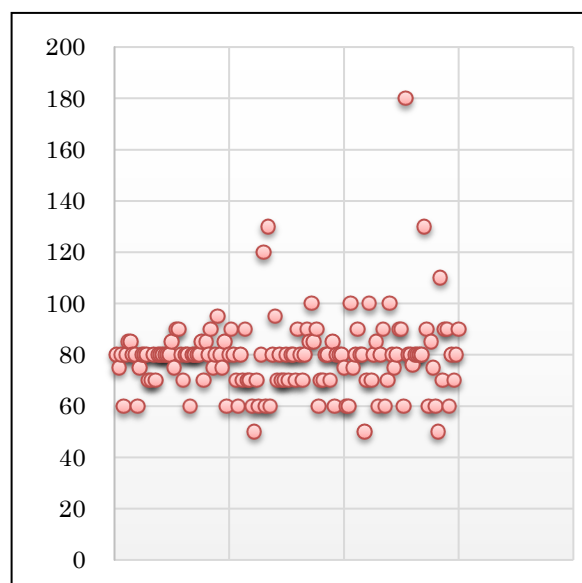
家庭血圧の正常値は、最高血圧が 135 mmHg 未満、診察室血圧の正常値は、最高血圧が 140 mmHg 未満とされています。最も多かった回答は 120 mmHg で 45 人の方が選択されていました。



問３２．正常な最低血圧はいくつくらいだと思いますか？（正常な血圧値をご存知ない方も大体の予想でお答えください。）（数値記入）

回答者数	159 人
平均値	79 mmHg
最大値	180 mmHg
最小値	50 mmHg

家庭血圧の正常値は、最低血圧が 85 mmHg 未満、診察室血圧の正常値は、最低血圧が 90 mmHg 未満とされています。最も多かった回答は 80 mmHg で 58 人の方が選択されていました。



問３３．その他、健診等に関するご意見、ご要望がありましたら、ご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

1. 健診の受診状況・意識

- ・高齢になると健診も億劫になるが、かかりつけ医や診断の案内を見て受診するようにしたい。市の健診やTVCMは良いと思います。
- ・毎年市の健診受けています。今は有料に前回からなっていますが私は受けています。他の病院でがん検診を受けると、だいぶ高いので市のがん検診は他よりも安いと思います。
- ・今のままで十分です。
- ・毎年ご案内をいただいて、毎年受診しています。ご案内がなければ受診していないと思います。背

中を押していただいて感謝しています。ありがとうございます。

- ・一昨年までは主人の職場の人間ドックを受けていましたが、退職して受けられなくなったので、市の特定健診等をどんどん利用したいと思います。
- ・もっと健診が大事なことをアピールするべきだと思う。
- ・昨年度、初めて特定健診を受けました。国保課の方から連絡がきて、最初は個人情報に気になりましたが、親切にアドバイスいただいて今はとても感謝しています。個人事業主で何年も健康診断を受けていなかったもので、良いきっかけになりました。

2. 健診内容・環境に関する要望

- ・眼圧検査が恐くて何度もやり直すはめになります。うまく検査を受けるコツなど説明に書いてほしいです。
- ・バリウムが飲みにくいので飲みやすいようにしてほしい。検査時に音楽を流してリラックスできるようにしてほしい。
- ・公民館で健診は保健センターに比べて狭いので圧迫感を感じたが、家から近くで受けられるので良かった。簡易的な囲いのため話し声は聞こえ、受ける人にとっては落ち着けない環境だと思った。もう少し配慮してくれれば良いと思った。待合室と診察室の境についたてを立てるとか、部屋を分けるなどされてはいかがかと思った。
- ・有料でいいので胃カメラの検査を実施してほしい。
- ・流れ作業式で詳しく説明が聞けない。
- ・病院で市の検診を受けるとがん検診が受けられないのが残念。
- ・後期高齢者のがん検診はどうすれば良いのかよく分かりません。
- ・職場などで健診が義務のようになっていればするが、無職の場合は受けるきっかけがないように思うので、できれば誕生日前後などに受けられるように義務化してはどうでしょうか。
- ・耳の検査もして欲しい。
- ・健診等については大変充実しているように思われるが、人生の終末期を迎える頃には地域毎にかかりつけ医院を決めて欲しい。

3. がん検診・費用負担に関する意見

- ・がん検診の1つ1つの負担金額はちょうど良いと思いますが、一度に何個か受けると高いかなと思い、1つやめたいと思ってしまいます。2年に1回のがん検診をセットで少し割引いてくれるとありがたいです。
- ・各がん検診の無料クーポンを5年毎、隔年等、配布してほしい。複数受診すると負担が多くなり、受診を渋る方が多くなり、早期発見になり辛いと考えます。・健診の費用が高い。
- ・がん健診について、若い時は案内があったので必ず受診していたが、高齢者になると案内が無いので異常を感じないと病院に行く気がしない。
- ・保険に関係なく、がん検診等の費用がかかるものをチケット制にしたら1人でも多くの市民ががん検診を受けられるのではないかと思います。
- ・がん検診が有効と考えるのなら、がんの治療に高額な費用がかからないようにするため、無料で受診できるようにしてほしい。
- ・専業主婦の妻が若いころに検診を受けていなかったもので、自己負担低く受けることができるようになると嬉しい。

4. 日程・予約に関する要望

- ・もっと土日の検診日時が増えるとありがたいです。
- ・検診案内のはがきが来て検診のWEB予約をしようとしても直近の希望日がすでにいっぱい、仕事が休みの日に予約を入れることが出来ない。
- ・仕事があり市の特健健診の時間が受けられない。
- ・土日の軽い歯科健診などもあれば良い。
- ・土日に保健センターへがん検診を受けに行くと、指定された時間に行ってもかなり待ちます。待ち時間が嫌で受けたくない人も多いのでは？と思います。

5. 健診へのアクセス・支援

- ・老人向けに送迎車が必要と思います。

6. 健康意識・生活習慣に関する意見

- ・低料金で利用できる健康施設があると良いですね。特定の人が長い時間独占出来ないルールが必須。
- ・注射がいや、血を見るのがいや、痛いのがいやなので健診を受けたくない。
- ・医療機関や介護施設に頼らずにもっと全ての年代で身体を動かす取り組みを増やして欲しいです。
(健康寿命をもっと伸ばすために)
- ・ほぼ毎朝1時間前後全身ストレッチをしています。老若男女を問わずストレッチはおすすめです。
夕方1時間あまり速歩ウォーキングしています。時間はつくるもので日課になればグッドです。
- ・体力維持のため、自転車に5~7km乗る様にしています。

<まとめ>

本市の健康寿命の延伸を実現させるためには、若い世代からの健康意識の向上や、生活習慣病等の発症及び重症化予防が大変重要であり、そのためには、特定健診やがん検診、人間ドック等の受診による早期発見や、栄養、運動等の生活習慣の改善が重要です。

まず、自分の健康状態を知る健診の受診状況についてですが、全体の83%が毎年健康診査（血液検査）を受診していて、市の集団健診や職場等の機会を利用していました。また、がん検診を年1回、もしくは2年に1回受診していると答えた人は、全体の59%でした。

健診を受けた理由としては、『早期発見だと治りが早いから』、『がん検診の対象年齢だから』、『健診項目にがん検診があったから』の回答が多く、健康づくりへの関心の高さが伺えました。一方、がん検診を受けなかった理由としては、『心配なときは医療機関を受診するから』『費用が掛かるから』、『時間がとれないから』等の回答がありました。

次に、高血圧症を含む生活習慣病は動脈硬化を進行させ、脳・心臓・腎臓の重篤な病気につながるため、生活習慣を改善し、血圧を適切にコントロールする必要があります。普段から血圧測定をしている人の割合は33.7%で、血圧計の普及状況、血圧測定の機会を推察できました。食事習慣に関しては、野菜を多く取り入れてバランスの良い食事を心がける人が多いようでした。運動習慣については、全体の1日の平均歩数は5,904歩と、国の推奨歩数に満たないものの、年々増加しています。一方、1日延べ30分以上の運動を週2日以上行っている人の割合は48%で定期的な運動習慣の定着が課題となっています。

本市では健康づくり推進本部の生活習慣病予防グループにおいて、生涯を通じた生活習慣病予防対策を推進しております。脳・心臓・腎臓の血管を守るために実施している特定健診や、早期発見・早期治療を目的としたがん検診は、症状が出てからの受診では遅く、定期的な健診で健康状態を確認する必要があるため、健診カレンダーの配布や市役所・図書館等のロビー展示、出前講座での健康教育等、さまざまな機会を活用した健診の普及啓発に努めています。

また、今年度は健康づくり推進本部において、「食習慣の改善」を共通課題としており、バランスの良い食事についてのリーフレット（栄養バランスシート）を作成し、毎月17日の健康相談や出張健康相談、乳幼児健診等の保健指導に活用しています。その他、ベジチェックを用いた野菜摂取量の測定を行い、1日350g以上の野菜摂取の促進を図っております。今回の調査では、野菜摂取やバランスの良い食事を意識する人が増加していることがわかりました。今後も引き続き各種ツールを用いた健康教育、健康相談等、食習慣改善のための保健事業を実施してまいります。

今後も健康寿命の延伸を目指して、地域や学校、職域等と連携し、健診を含めた各種保健事業の利便性の向上に取り組んでまいります。また、市民の皆様がよくご覧になっている市政だよりや、市ホームページ等の様々な媒体を通じて、わかりやすい健康づくり情報の周知にも努めてまいります。

今回のアンケートへご回答、貴重なご意見をいただいた市政モニターの皆様には、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

（担当課：保健センター・国保課）

テーマ④ こども・若者支援政策にかかるアンケート調査

【調査趣旨】

新居浜市では、さまざまなこども・若者の育成と問題解決に関する施策を推進しております。この調査は、今後のこども・若者支援施策を検討するうえでの基礎資料とするものです。

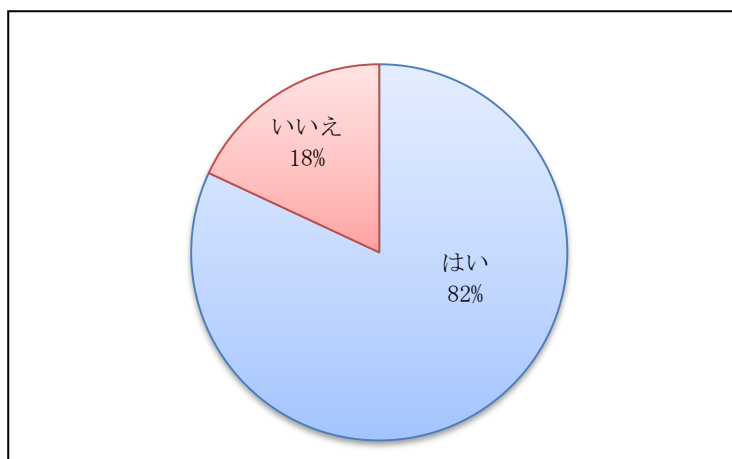
この調査結果は、他にもれたり、他の目的に利用することは一切ありません。皆様の日常生活の様子や、考えていることをできるだけありのままにお答えください。ご協力よろしくお願いいたします。

(担当課：こども未来課)

(※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略)

問2. あなたは現在結婚していますか？【必須】(1つ選択)

1. はい	127 人
2. いいえ	28 人
合 計	155 人

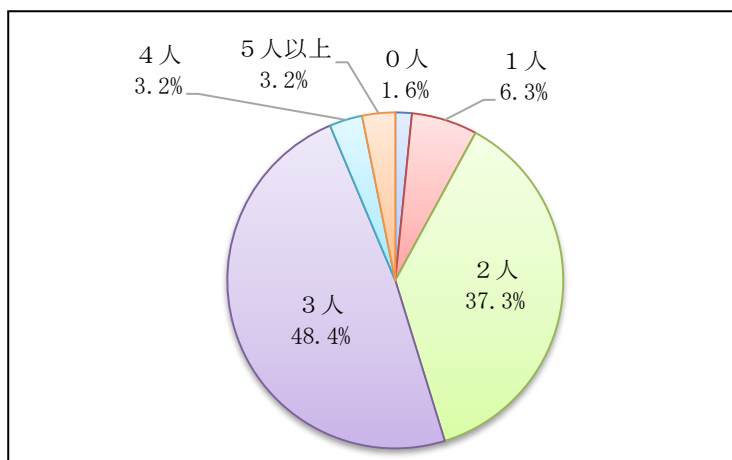


「1. はい」(127 人) と答えた方が全体の 82% という結果となりました。

問3. 問2で「1. はい」を選択した方(現在結婚している方)にお聞きします。あなたにとって「理想とするこどもの人数」と「実際に持つつもりのかどもの人数」を教えてください。

(例：本当は3人ほしいが、実際は2人しか持てない等) まず、「理想とするこどもの人数」を教えてください。(1つ選択)

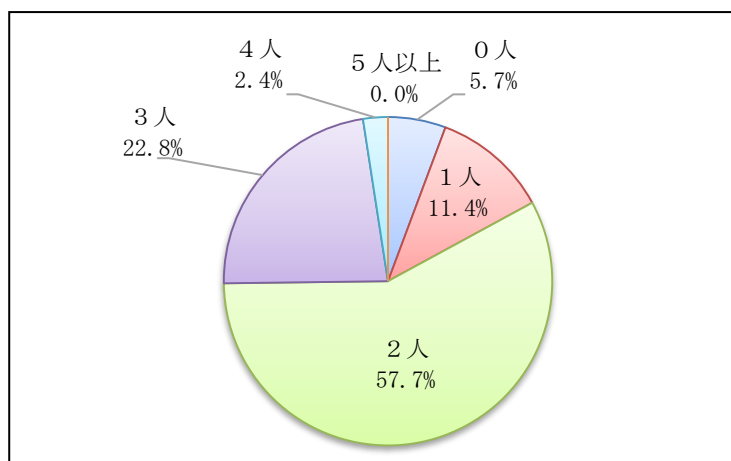
1. 0 人	2 人
2. 1 人	8 人
3. 2 人	47 人
4. 3 人	61 人
5. 4 人	4 人
6. 5 人以上	4 人



理想とするこどもの人数として多く選ばれたのは「3 人」(61 人) で 48.4%、次いで多いのが「2 人」(47 人) で 37.3% となり、この 2 つの答えが全体の 85.7% を占めるという結果となりました。

問4．次に、「実際に持つつもりの子どもの人数」を教えてください。（1つ選択）

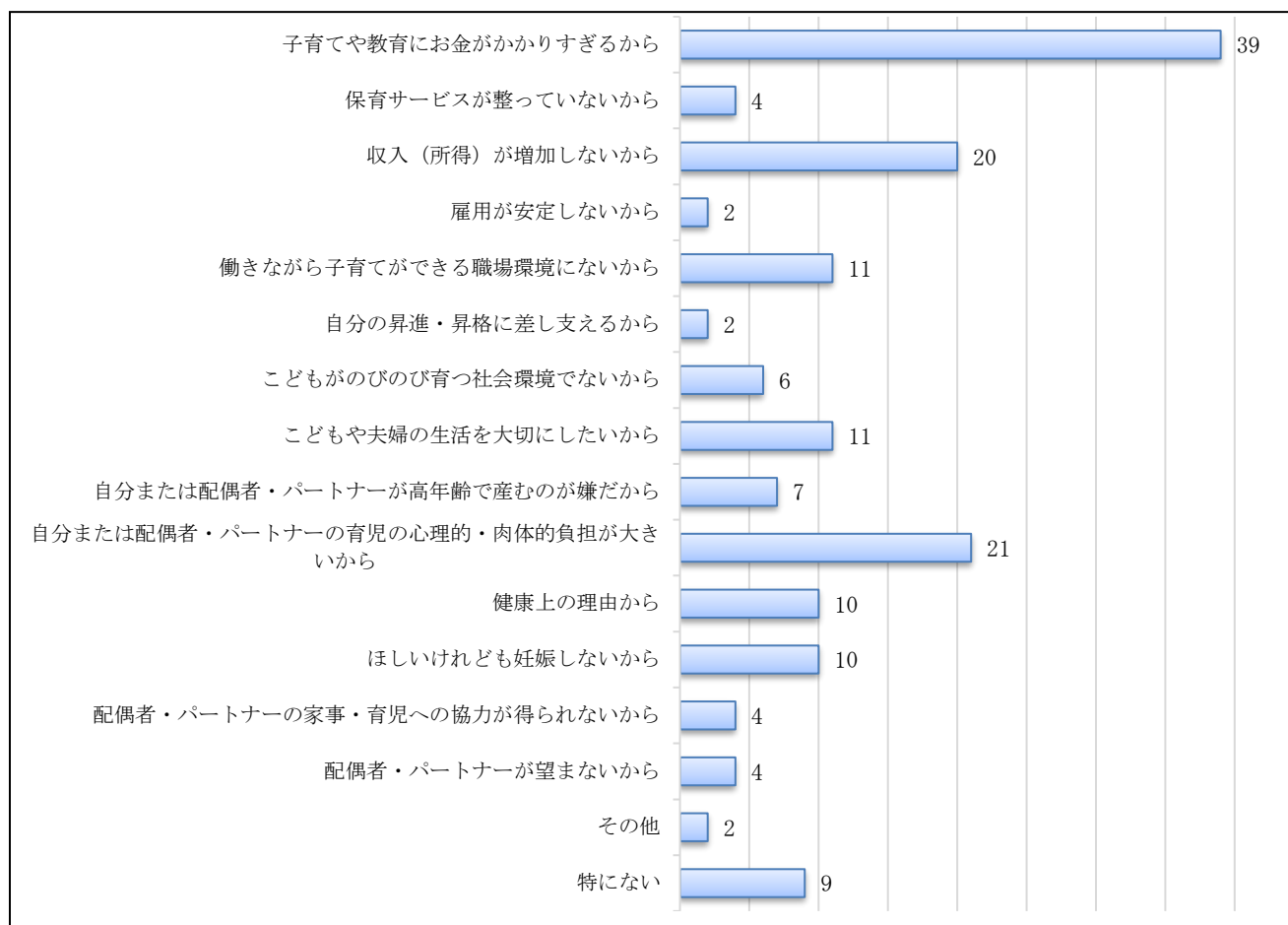
1. 0人	7人
2. 1人	14人
3. 2人	71人
4. 3人	28人
5. 4人	3人
6. 5人以上	0人



実際に持つつもりの子どもの人数として多く選ばれたのは「2人」（71人）で57.7%、次いで多いのが「3人」（28人）で22.8%でした。問3と比較して増加しているのは「2人」（37.3%→57.7%）、「1人」（6.3%→11.4%）という結果となりました。

問5．「実際に持つつもりの子どもの人数」が「理想とする子どもの人数」よりも少ない方にお聞きします。理想の数まで子どもを持たない、または持てない理由はなんですか。（複数選択）

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから	39人
2. 保育サービスが整っていないから	4人
3. 収入（所得）が増加しないから	20人
4. 雇用が安定しないから	2人
5. 働きながら子育てができる職場環境にないから	11人
6. 自分の昇進・昇格に差し支えるから	2人
7. こどもがのびのび育つ社会環境でないから	6人
8. こどもや夫婦の生活を大切にしたいから	11人
9. 自分または配偶者・パートナーが高年齢で産むのが嫌だから	7人
10. 自分または配偶者・パートナーの育児の心理的・肉体的負担が大きいから	21人
11. 健康上の理由から	10人
12. ほしいけれども妊娠しないから	10人
13. 配偶者・パートナーの家事・育児への協力が得られないから	4人
14. 配偶者・パートナーが望まないから	4人
15. その他	2人
16. 特にない	9人



「１．子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（３９人）、「１０．自分または配偶者・パートナーの育児の心理的・肉体的負担が大きいため」（２１人）、「３．収入（所得）が増加しないから」（２０人）が多く挙げられました。

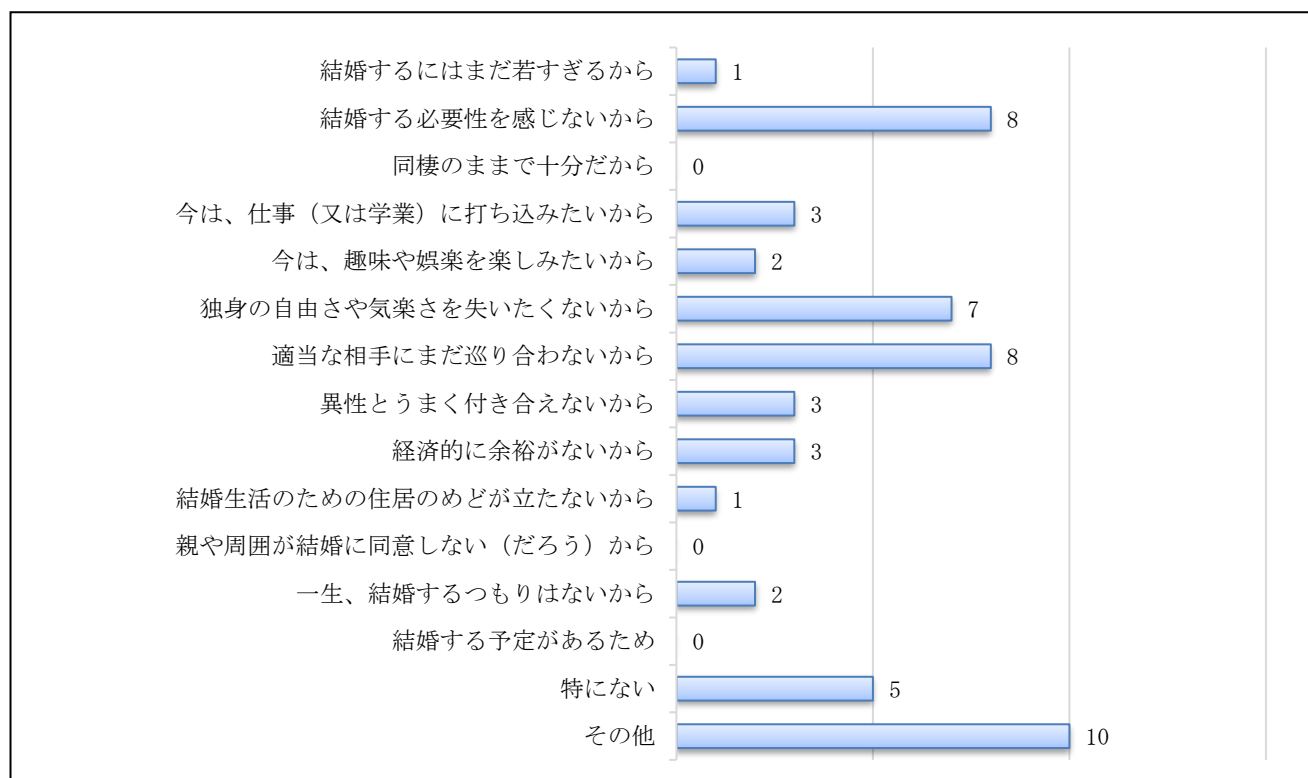
問６．問５で「１５．その他」を選択した方にお聞きします。理想の数までこどもを持たない、または持てない理由を自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・現在専業主婦で３人目が欲しいが、産むより就労をした方がいいという周囲の雰囲気。
- ・次男の出産時、前置胎盤で大量出血があり帝王切開手術を行った。３人目は妻の負担を考え諦めた。
- ・自分とパートナーの意思として早めに子育てを終えたいから。

問 7. 問 2 で「2. いいえ」を選択した方（現在結婚していない方）にお聞きします。現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。（複数選択）

1. 結婚するにはまだ若すぎるから	1 人
2. 結婚する必要性を感じないから	8 人
3. 同棲のままで十分だから	0 人
4. 今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから	3 人
5. 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	2 人
6. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	7 人
7. 適当な相手にまだ巡り合わないから	8 人
8. 異性とうまく付き合えないから	3 人
9. 経済的に余裕がないから	3 人
10. 結婚生活のための住居のめどが立たないから	1 人
11. 親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	0 人
12. 一生、結婚するつもりはないから	2 人
13. 結婚する予定があるため	0 人
14. 特にない	5 人
15. その他	10 人



結婚していない理由として多く挙げられたのは、「15. その他」（10 人）が最も多く、次いで「2. 結婚する必要性を感じないから」（8 人）、「7. 適当な相手にまだ巡り合わないから」（8 人）という結果となりました。

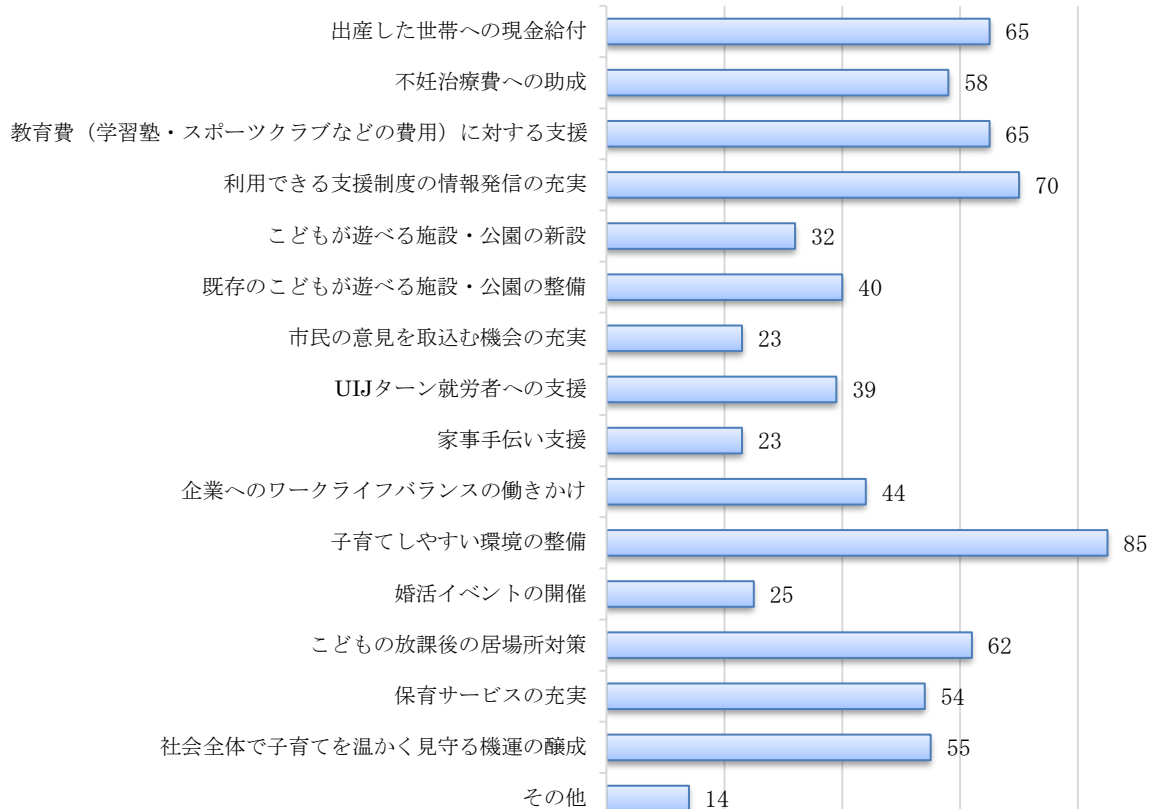
問 8. 問 7 で「15. その他」を選択した方にお聞きします。現在結婚していない理由を自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・離婚したため。
- ・結婚して一緒に生活するのにいい相手がいない。婚活パーティーも、さほど結婚する気がなかったり、子どもがいないという若い人向け（20 代）のパーティーは色んな工夫をしたものがたくさんあるが、年齢層が高くなると全然ない。県のパーティーなどはもう少し工夫がないと他県に負けている。
- ・日本が経済的に可哀想になる時代に大人になる子どもを産みたくないから結婚の必要がない。夫がサラリーマンでなく、子どもも居なければ結婚の必要がない

問 9. 少子化対策として、新居浜市が実施した方がいいと考える支援はどれですか。【必須】（複数選択）

1. 出産した世帯への現金給付	65 人
2. 不妊治療費への助成	58 人
3. 教育費（学習塾・スポーツクラブなどの費用）に対する支援	65 人
4. 利用できる支援制度の情報発信の充実	70 人
5. こどもが遊べる施設・公園の新設	32 人
6. 既存のこどもが遊べる施設・公園の整備	40 人
7. 市民の意見を取込む機会の充実	23 人
8. UIJ ターン就労者への支援	39 人
9. 家事手伝い支援	23 人
10. 企業へのワークライフバランスの働きかけ	44 人
11. 子育てしやすい環境の整備	85 人
12. 婚活イベントの開催	25 人
13. こどもの放課後の居場所対策	62 人
14. 保育サービスの充実	54 人
15. 社会全体で子育てを温かく見守る機運の醸成	55 人
16. その他	14 人



「１１．子育てしやすい環境の整備」(85人)、「４．利用できる支援制度の情報発信の充実」(70人)、「１．出産した世帯への現金給付」(65人)、「３．教育費（学習塾・スポーツクラブなどの費用）に対する支援」(65人)が多く挙げられました。

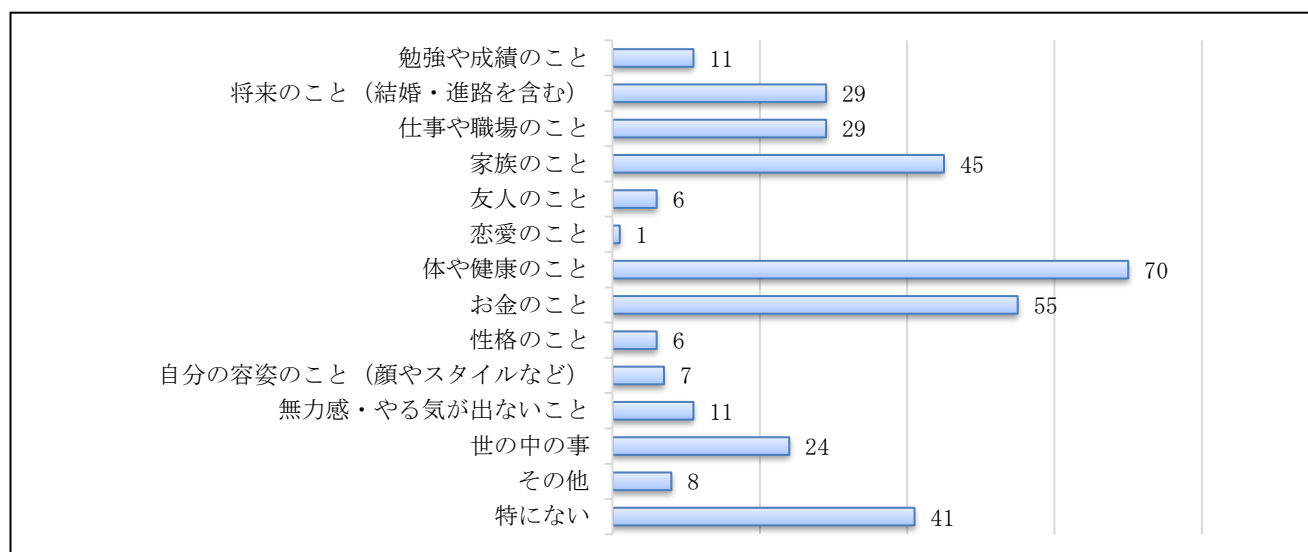
問１０．問９で「１６．その他」を選択した方にお聞きします。少子化対策として、新居浜市が実施の方がいいと考える支援を自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・結婚式も少なくなりました。私が結婚したいなあと思うキッカケの１つが結婚式への参加だった様に思います。式場の様子をＴＶで放送するのはどうかと思います。幸せな式の様子（新居浜市民の人の式）を目にするのは？
- ・そもそも収入の問題、いろんな物の値上がり、物価高とのバランスが取れないと、子どもを育てるより自分（大人）の生きていく生活だけで手いっぱいだと思う。理由はあるだろうが、離婚してシングルの人が多すぎる大人を教育のやり直しをしないと、と思う。
- ・パート、半日勤務だと学童とか預けられない。働き方にかかわらず、子どもを預けられる環境があることが、子どもを多く産んでもいいかなという発想につながると思う。
- ・小１の壁は何度も耳にします。実際、学童は１８時までしか利用できませんが、18:30もしくは19:00まで利用出来れば働きやすいと思います。
- ・出産すれば住民税等を減税。子どもが増える毎に割合を増やす。
- ・子どもを持つ、結婚する、に対してプレッシャーを与えない。個人の幸せの延長線上に、選択の自由があり、その中に結婚、子育てが含まれる、という、当たり前だが全く実現できていないことを、まずは明言してみてはいかがでしょうか。

問 1 1. 相談支援体制の充実のため、悩み事の種類や相談先等についてお伺いします。あなたが今、悩んでいることは何ですか。【必須】（複数選択）

1. 勉強や成績のこと	11 人
2. 将来のこと（結婚・進路を含む）	29 人
3. 仕事や職場のこと	29 人
4. 家族のこと	45 人
5. 友人のこと	6 人
6. 恋愛のこと	1 人
7. 体や健康のこと	70 人
8. お金のこと	55 人
9. 性格のこと	6 人
10. 自分の容姿のこと（顔やスタイルなど）	7 人
11. 無力感・やる気が出ないこと	11 人
12. 世の中の事	24 人
13. その他	8 人
14. 特にない	41 人



「7. 体や健康のこと」(70 人)、「8. お金のこと」(55 人)、「4. 家族のこと」(45 人)、が多く挙げられました。

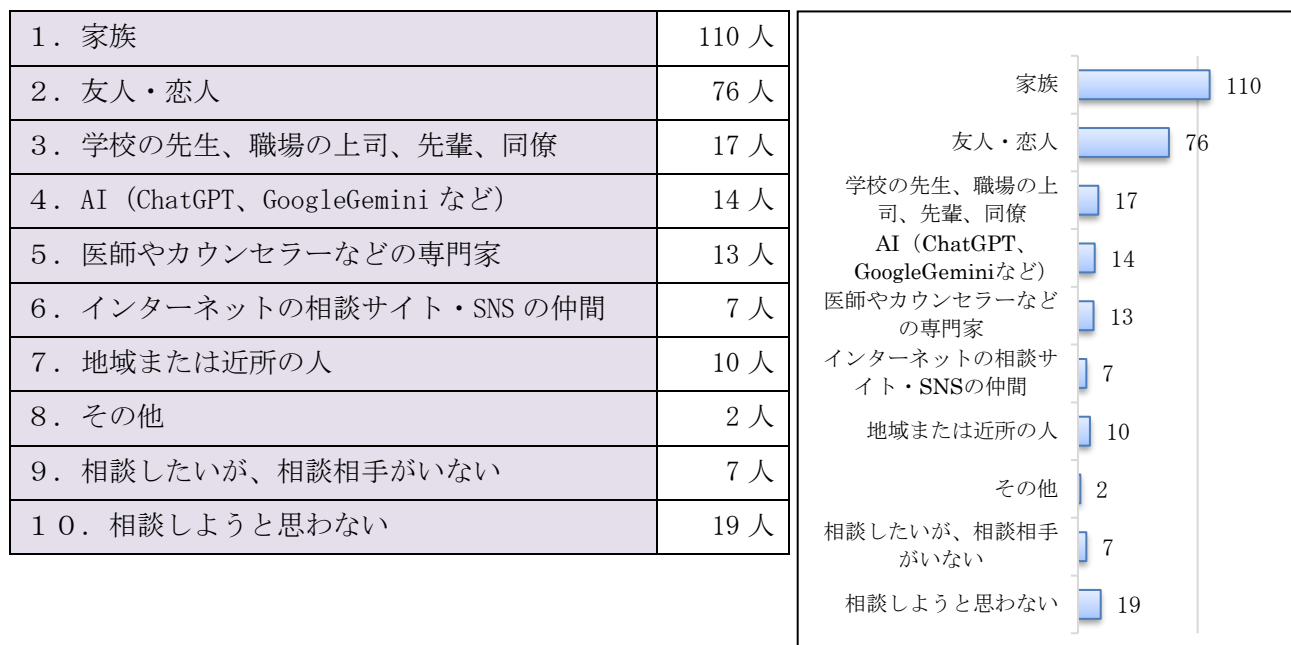
問 1 2. 問 1 1 で「13. その他」を選択した方にお聞きします。あなたが今、悩んでいることについて自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

・孫の不登校。親が対応すべき問題と思っているが祖母としてどういう関わり方がいいのか、等について悩んでいる。

- ・老後
- ・再チャレンジの支援
- ・人として生き続けること
- ・子どもがほしいが年齢的にかなりむずかしい。

問 1 3. あなたは、悩みや心配事を誰かに相談しますか。【必須】（複数選択）



相談先として最も多く挙げられたのは「1. 家族」（110 人）で、次いで「2. 友人・恋人」（76 人）、という結果となりました。

問 1 4. 問 1 3 で「8. その他」を選択した方にお聞きします。あなたが悩みや心配事を相談する方を自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

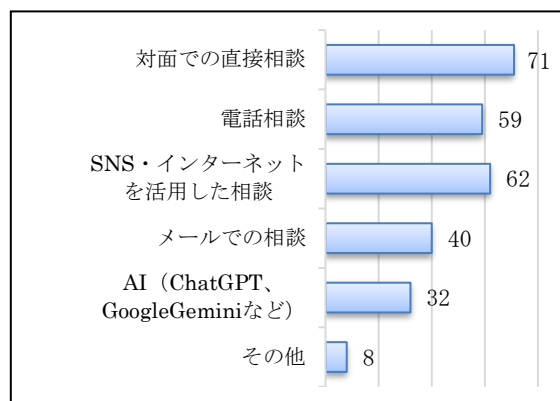
- ・別居生活している 3 名の子ども



©NPO 法人新居浜まちゅり隊

問 15. どのような方法であれば相談しやすいと思いますか。【必須】（複数選択）

1. 対面での直接相談	71 人
2. 電話相談	59 人
3. SNS・インターネットを活用した相談	62 人
4. メールでの相談	40 人
5. AI（ChatGPT、GoogleGemini など）	32 人
6. その他	8 人



「1. 対面での直接相談」（71 人）、「3. SNS・インターネットを活用した相談」（62 人）、「2. 電話相談」（59 人）、が多く挙げられました。

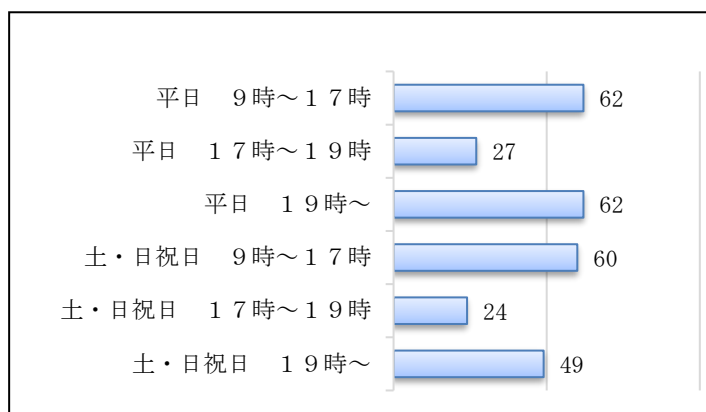
問 16. 問 15 で「6. その他」を選択した方にお聞きします。あなたが相談しやすいと感じる方法を自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・電話を利用したことがあるが、話しにならない。方法がわからないが、聞く気のある所があれば方法はなんでも良いと思う。
- ・電話や対面での相談は勇気がいると思う。よほど切羽詰まっている時であればできるだろう。導入段階では匿名でできるものがよいのでは。メール、SNS、投書箱等。
- ・どの様な方法であっても、絶対に秘密が守られるという保証がない（と思う）ので、本当に大事な相談になればなるだけ他人には相談したくない。苦しくても自分だけで解決策を探る。
- ・悩みをその場で解決できるような充実した施設で相談したい。
- ・話さずだけ話して、がんばれーって終わる相談は無駄な時間。
- ・面識のある心許せる人になら、直接会って話を聞いてもらうのが話しやすいと思います。
- ・知らない人にこそ相談しやすい内容になると、チャットやメールなどの方が話しやすいが、心が軽くなるかどうかは、また少し違う気がする。
- ・民事の揉め事に対して市の相談窓口があれば良い。
- ・正直相談はいかなる方法でも難しい。
- ・どれも今ひとつ。

問 17. 相談サービスを利用したい時間帯は次のうちどれになりますか。【必須】（複数選択）

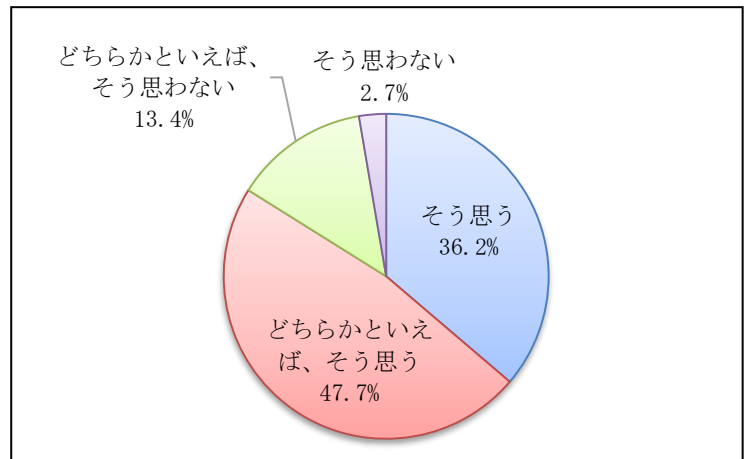
1. 平日 9時～17時	62 人
2. 平日 17時～19時	27 人
3. 平日 19時～	62 人
4. 土・日祝日 9時～17時	60 人
5. 土・日祝日 17時～19時	24 人
6. 土・日祝日 19時～	49 人



「1. 平日 9時～17時」(62人)、「3. 平日 19時～」(62人)、「4. 土・日祝日 9時～17時」(60人)が多く挙げられました。

問18. 市民の皆様のご意見をより反映しやすくするため、意見反映の方法等について伺います。
新居浜市へ意見を伝えたり、意見の実現に向けて一緒に取り組む機会に積極的に参加したいと思いませんか。(1つ選択)

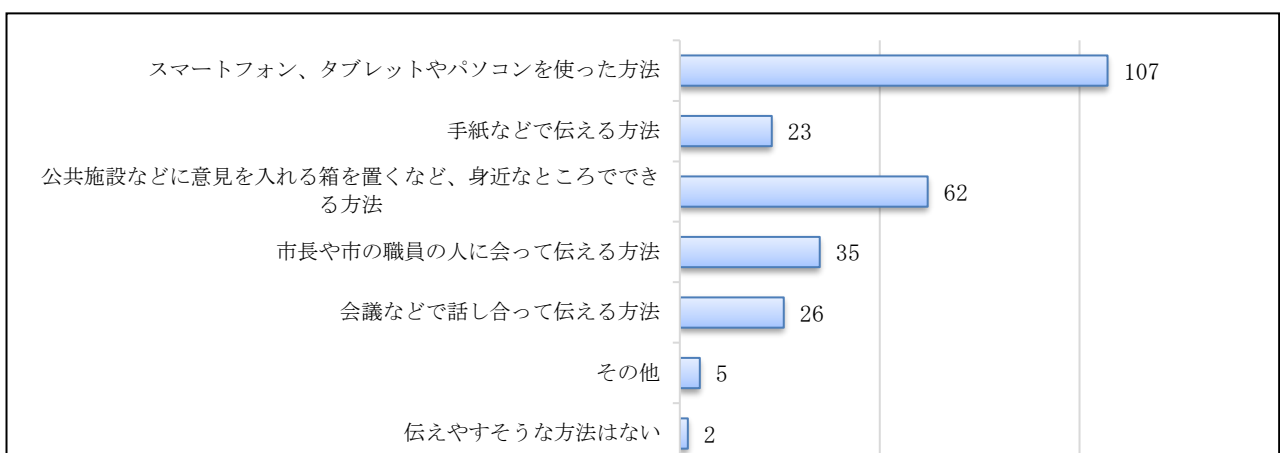
1. そう思う	54 人
2. どちらかといえば、そう思う	71 人
3. どちらかといえば、そう思わない	20 人
4. そう思わない	4 人



「2. どちらかといえば、そう思う」(71人)で47.7%、次いで多いのが「1. そう思う」(54人)で36.2%でした。2つの項目を合わせると全体の83.9%の方が市に対して意見を伝えたり意見の実現に向けて一緒に取り組む機会に積極的に参加したいと考えているという結果となりました。

問19. どのような方法や手段があれば、自分の希望や思いを新居浜市に伝えやすいですか。(複数選択)

1. スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	107 人
2. 手紙などで伝える方法	23 人
3. 公共施設などに意見を入れる箱を置くなど、身近なところでできる方法	62 人
4. 市長や市の職員の人に来て伝える方法	35 人
5. 会議などで話し合っ伝える方法	26 人
6. その他	5 人
7. 伝えやすそうな方法はない	2 人



市に希望や思いを伝えやすい方法として多く挙げられたのは「１．スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」（107人）が最も多く、次いで「３．公共施設などに意見を入れる箱を置くなど、身近なところでできる方法」（62人）が多いという結果となりました。

問２０．問１９で「６．その他」を選択した方にお聞きします。どのような方法や手段がよいか、具体的にあれば自由にご記入ください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・オンラインイベント(ZOOM など)
- ・市に相談窓口や市議会議員との対話の場があればいいと思います。
- ・ポスト投函できる専用用紙があると書きやすい。そして、それを全戸配布してほしい。理由は、まず意見募集していることを消極的な人まで伝えきらないと不公平。３の方法は手軽だが箱のある所に行かないし、行ってもその場で書くのは大変。
- ・電話
- ・公民館運営の場は、年齢が高い層が多く、６０代では意見を言おうにもいえない。もっと若い層の意見が取り入れられるように、定年制を設けるなど年齢層を制限することも大切ではないかと思う。

＜まとめ＞

このたびのアンケートには、１５５名の皆様から貴重なご意見を頂戴しました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

今回のアンケート調査では、２０代から８０代までの年齢層の皆様から、特定の地域に偏ることなく、バランスよくすべての校区の方からご意見を伺うことが出来ました。

まず、出産関係についての項目についてですが、理想とすることの人数にまで子どもを持ってない方は約半数となっておりました。理由としては、金銭的及び心理的、肉体的負担が多くなっておりました。また、少子化対策への支援としても、金銭的支援だけでなく、心理的及び身体的負担を軽減するための支援施策が多く望まれておりました。

続いて、相談支援についての項目ですが、SNS やメール等の非口頭での方法に比べ、対面及び電話等の口頭での相談の方が相談しやすいとの意見が多くなっておりました。また、相談の時間帯については、曜日を問わず９時～１７時及び１９時以降が多くなっておりました。

当市では現在、こどもから若者を対象とした「新居浜市こども計画」の策定を進めております。今回のアンケート調査を通じて得られたご意見については、１８歳から３９歳までの市民の方々に実施したアンケート調査等の結果も踏まえて、「新居浜市こども計画」にしっかりと反映させていきたいと考えております。

市政モニターの皆様におかれましては、引き続き、市政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。今回はアンケートにご協力くださり、心より感謝申し上げます。

（担当課：こども未来課）

テーマ⑥ 食品ロスの削減について

【調査趣旨】

新居浜市では「愛媛県食品ロス削減推進計画」が令和3年3月に策定されたことを受けて、愛媛県が掲げる「オール愛媛で減らそう食品ロス～もったいないとおもいやりの心～」を目指すべき将来像として取組みを推進し、令和5年3月に「にいはま食品ロス削減推進計画」を策定しました。

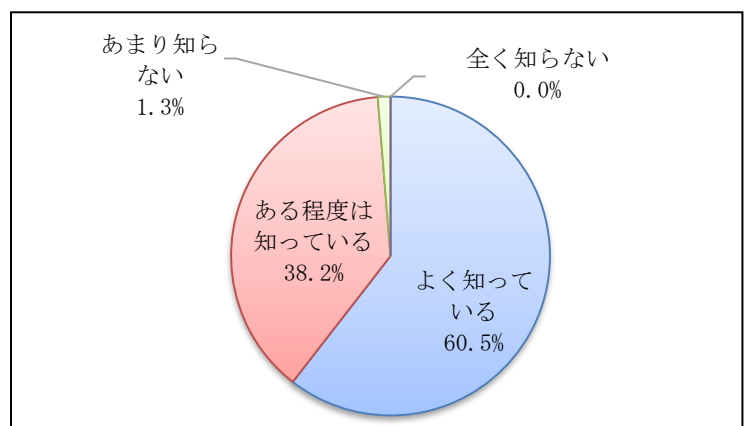
今回のアンケートでは、食品ロスの削減について、市民の皆さんの意識や意見をお伺いし、今後の食品ロス削減を進めていくための参考としたいと考えています。

(担当課：廃棄物対策課)

(※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略)

問2. 「食品ロス」という言葉を知っていますか。(1つ選択)

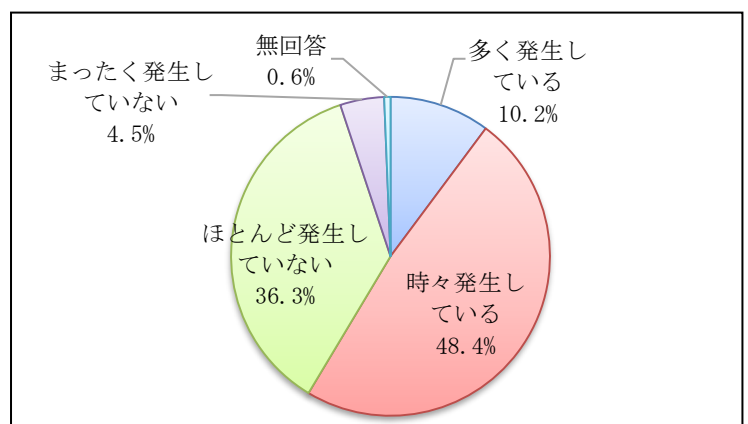
1. よく知っている	95 人
2. ある程度は知っている	60 人
3. あまり知らない	2 人
4. 全く知らない	0 人
合計	157 人



「1. よく知っている」(60.5%)、「2. ある程度は知っている」(38.2%)と答えた方が多く、この2つを合わせると全体の9割を超えています。

問3. 食品ロスとは、食べ残しや調理の際の過剰除去（野菜の皮を厚くむき過ぎたりするなど食べられる部分を捨てること）や売れ残りなどでまだ食べることができるのに捨てられてしまう食品のことですが、あなたのお宅の「食品ロス」の発生状況はどうですか。(1つ選択)

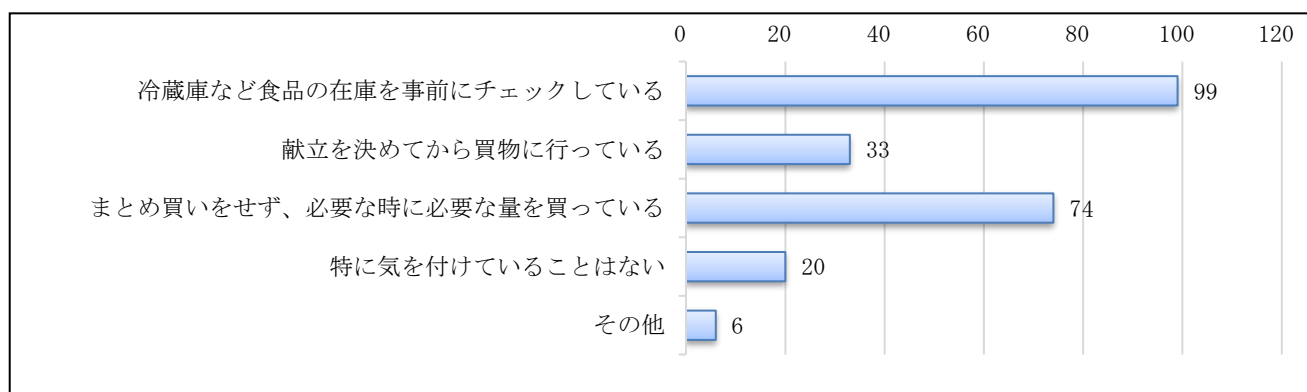
1. 多く発生している	16 人
2. 時々発生している	76 人
3. ほとんど発生していない	57 人
4. まったく発生していない	7 人
無回答	1 人
合計	157 人



「2. 時々発生している」(48.4%)と答えた方が最も多く、次いで「3. ほとんど発生していない」(36.3%)、「1. 多く発生している」(10.2%)、「4. まったく発生していない」(4.5%)の順となっています。

問4. 食品ロスの削減のためには、「買いすぎない・作りすぎない・食べ残さない」ことが重要であるとされていますが、買物時に気を付けていることはありますか。(複数選択)

1. 冷蔵庫など食品の在庫を事前にチェックしている	99 人
2. 献立を決めてから買物に行っている	33 人
3. まとめ買いをせず、必要な時に必要な量を買っている	74 人
4. 特に気を付けていることはない	20 人
5. その他	6 人



「1. 冷蔵庫など食品の在庫を事前にチェックしている」(99 人)、「3. まとめ買いをせず、必要な時に必要な量を買っている」(74 人)などが、食品ロスの削減のために、買物時に気を付けていることとして多く挙げられています。

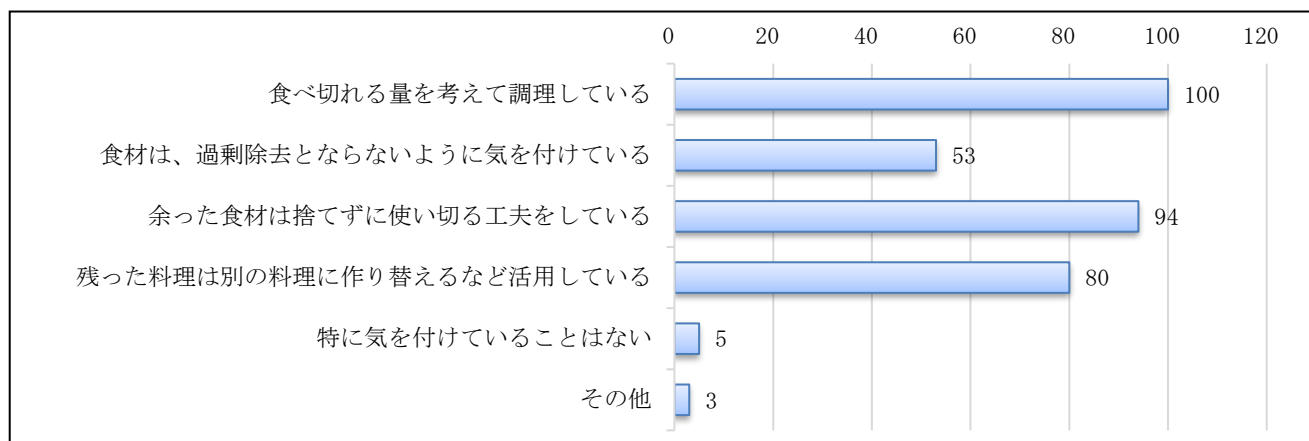
問5. 問4で「5. その他」を選択した方は、その内容をお書きください。(自由記入)

たくさんの回答をいただき、ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・はじめからカートを使うとつい買い過ぎてしまうと思います。カゴを持って重さを感じながら買い物をする。重い物を買う時は、最後にカートを使用します。
- ・野菜など手造りのものは全て利用する。
- ・野菜等安い時は冷凍する為まとめ買いをするが、ギリギリ迄スーパーに行かない！不要品買っている。
- ・期限が迫り安くなっている物を買ひ、その食材から献立を決めている。
- ・冷凍庫に入るかどうかを気にする。

問6. 食品ロスの削減のためには、「買いすぎない・作りすぎない・食べ残さない」ことが重要であるとされていますが、料理を作る際に気を付けていることはありますか。(複数選択)

1. 食べ切れる量を考えて調理している	100 人
2. 食材は、過剰除去とならないように気を付けている	53 人
3. 余った食材は捨てずに使い切る工夫をしている	94 人
4. 残った料理は別の料理に作り替えるなど活用している	80 人
5. 特に気を付けていることはない	5 人
6. その他	3 人



「1. 食べ切れる量を考えて調理している」(100人)、「3. 余った食材は捨てずに使い切る工夫をしている」(94人)などが、食品ロスの削減のために、料理を作る際に気を付けていることとして多く挙げられています。

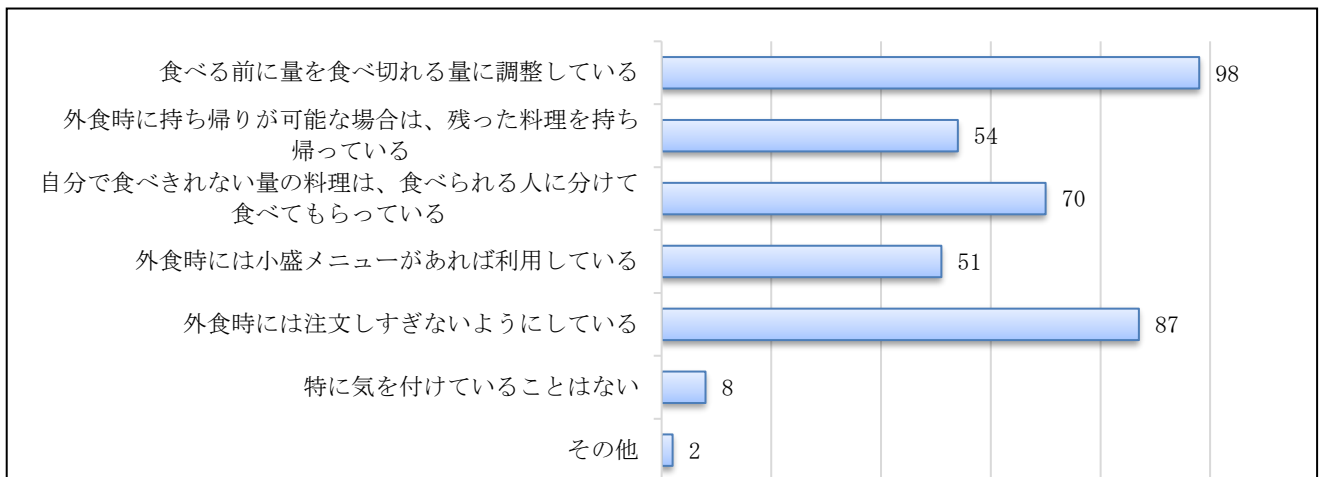
問7. 問6で「6. その他」を選択した方は、その内容をお書きください。(自由記入)

たくさんの回答をいただき、ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・作らない。すぐに食べられる物を利用する。余ったら冷凍する。
- ・食べられるものは何でも食べる。全部食べる。好き嫌いを無くす。
- ・冷凍している
- ・余りそうな食材は下処理をして、冷凍庫できるものは冷凍するようにしています。
- ・料理をしない。

問8. 食品ロスの削減のためには、「買いすぎない・作りすぎない・食べ残さない」ことが重要であるとされていますが、食事の際に気を付けていることはありますか。(複数選択)

1. 食べる前に量を食べ切れる量に調整している	98人
2. 外食時に持ち帰りが可能な場合は、残った料理を持ち帰っている	54人
3. 自分で食べきれない量の料理は、食べられる人に分けて食べてもらっている	70人
4. 外食時には小盛メニューがあれば利用している	51人
5. 外食時には注文しすぎないようにしている	87人
6. 特に気を付けていることはない	8人
7. その他	2人



「1. 食べる前に量を食べ切れる量に調整している」(98人)、「5. 外食時には注文しすぎないようにしている」(87人)、などが、食品ロスの削減のために、食事の際に気を付けていることとして多く挙げられています。

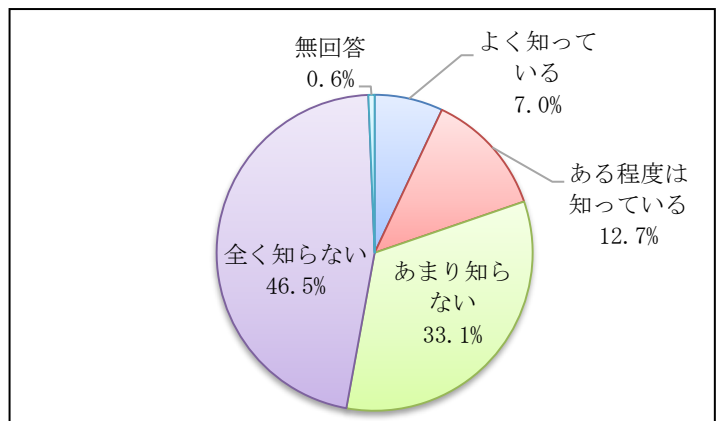
問9. 問8で「7. その他」を選択した方は、その内容をお書きください。(自由記入)

たくさんの回答をいただき、ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・子どもの食べ残しが一番多いので自分の分は5分目にして残したのを食べている。
- ・2回食分作り、残りは次回食の時の副としてそえている。買いすぎたと思った時には冷凍して、買い物しなかった日に利用している。

問10. 新居浜市では食品ロスの削減のため「3010（さんまるいちまる）運動」を推奨していますが、3010運動という言葉を知っていますか。(1つ選択)

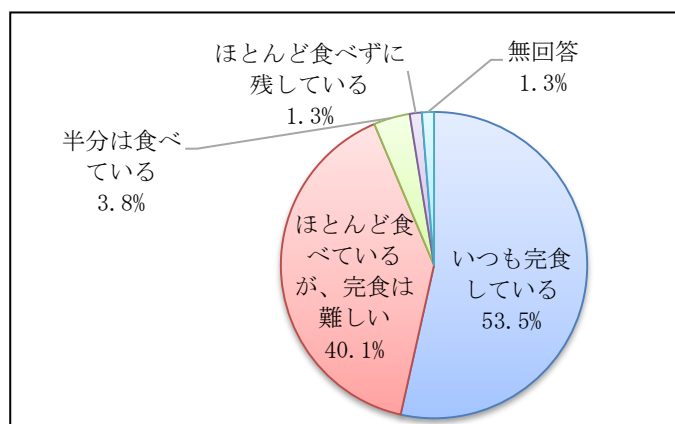
1. よく知っている	11人
2. ある程度は知っている	20人
3. あまり知らない	52人
4. 全く知らない	73人
無回答	1人
合計	157人



「4. 全く知らない」(46.5%)、「3. あまり知らない」(33.1%)と答えた方が多く、この2つを合わせると全体の7割を超えています。

問 1 1. 3010運動とは、宴会時などの大量の食べ残しが廃棄されている問題の解決策の一つとして全国各地で実施が呼びかけられている運動のことで、宴会時などの始めの30分と終わりの10分は食べる時間を確保して食べ残しをなくそうとする運動ですが、宴会時などに出された料理の消費状況はどうか。(1つ選択)

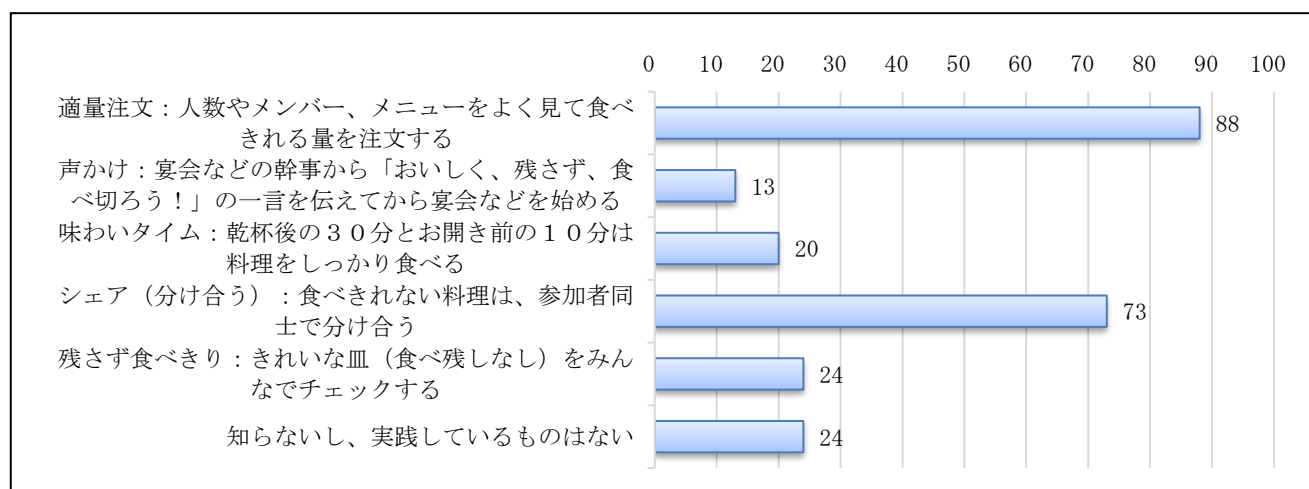
1. いつも完食している	84 人
2. ほとんど食べているが、完食は難しい	63 人
3. 半分は食べている	6 人
4. ほとんど食べずに残している	2 人
無回答	2 人
合計	157 人



「1. いつも完食している」(53.5%)、「2. ほとんど食べているが、完食は難しい」(40.1%)と答えた方が多くっており、「3. 半分は食べている」(3.8%)、「4. ほとんど食べずに残している」(1.3%)と答えた方は、全体の1割未満となっています。

問 1 2. 宴会時などに食品ロスの削減を実践するための5つの方法を宴会5箇条として啓発を進めています。知っている又は既に実践しているものはありますか。(複数選択)

1. 適量注文：人数やメンバー、メニューをよく見て食べきれる量を注文する	88 人
2. 声かけ：宴会などの幹事から「おいしく、残さず、食べ切ろう！」の一言を伝えてから宴会などを始める	13 人
3. 味わいタイム：乾杯後の30分とお開き前の10分は料理をしっかり食べる	20 人
4. シェア（分け合う）：食べきれない料理は、参加者同士で分け合う	73 人
5. 残さず食べきり：きれいな皿（食べ残しなし）をみんなでチェックする	24 人
6. 知らないし、実践しているものはない	24 人



「1. 適量注文」(88人)、「4. シェア（分け合う）」(73人)などが、宴会時に食品ロス削減を実践するための5つの方法（宴会5箇条）のうち、知っている又は既に実践しているものとして多く挙げられています。

問 1 3. 食品ロスの削減についてご意見等があればご記入ください。(自由記入)

たくさんの回答をいただき、ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

1. 宴会・外食での食品ロス削減

- ・宴会時に「足りないことは悪」という習慣がまだあるので、参加者全員が食品ロス削減への意識改革をする必要がある。
- ・宴会のある飲食店には、みきゃんのポスターなどで「3010 運動」を知らせる工夫があると良い。
- ・多人数での宴会実施者や会社には、3010 運動をよりいっそう推奨し、協力をお願いしたい。
- ・宴会やバイキング形式ではどうしても余る料理が出るので、難しさを感じる。
- ・宴会時くらいは自由に食を楽しみたい気持ちもあり、ロス削減との両立に悩む。
- ・宴会五箇条については知らなかったが、常識ではないかと思う。
- ・飲食店では、持ち帰り容器の販売や持ち帰りの促進をもっと積極的に行ってほしい。
- ・お店に「食品ロスにご協力ください。ご飯少なめご希望の方はお申し出ください」などの掲示をするとうい。

2. 家庭での工夫

- ・食べられる量を適量で注文・調理する。
- ・量は少なめにつくり、消費期限を確認する。
- ・家や冷蔵庫にあるものを確認してから調理する。
- ・作りすぎた時は冷蔵庫に入れて翌日に食べるので、捨てることはほぼない。
- ・家庭では残さないよう工夫し、余ったご飯は冷凍保存している。
- ・家族の食事は少し物足りないくらいに作り、ご飯やふりかけで調整する。
- ・「作りすぎず、食べすぎない」「過剰に作らない・注文しない」といった意識が大切。

3. スーパー・コンビニでの取り組み

- ・スーパーで「食品ロス削減にご協力ありがとうございます」と書かれた値引きシールは、消費者の心を動かす。
- ・スーパーやコンビニの弁当・惣菜の廃棄を減らす取り組みが必要。
- ・スーパーの惣菜の値引き時間をもっと早めると破棄が減る。
- ・スーパーの陳列棚に大量に並んでいる光景は異常に感じる。
- ・ドラッグストアにも消費期限間近のカートを設置すべき。

4. 社会的取り組み・制度面

- ・子ども食堂の場所を増やしたり、外食店とコラボして食品ロス削減企画をしてほしい。
- ・福祉センターなどで賞味期限の近い商品を引き取る取り組みを、もっと広げてほしい。
- ・農作物の規格外品など、出荷できない食材の活用を行政でも進めてほしい。
- ・食品ロスは大きな問題であり、行政や企業、団体での周知徹底や、場合によっては法的規制も必要かもしれない。
- ・新居浜市内の事業所に市役所のサテライトメンバーになってもらい、3010 運動を広める仕組みを作ると良い。

5. 意識・教育

- ・食材や生産者、調理してくれる人への感謝を伝えるポスターなどを掲示すると効果がある。
- ・「もったいない」という気持ちを常に持つことで改善される。
- ・飽食の時代は終わり、食べられることに感謝し、子どもにも教えていくことが大切。

- ・世界の貧困や飢餓をもっと周知し、日本の恵まれた状況を考え直すべき。

6. その他の意見

- ・戦前戦中を経験した世代にとって、食品ロスは考えられないことだった。
- ・スーパーは新製品の開発で利益を得ているが、その結果ロスも増えている。富を得た社会においてある程度のロスはやむを得ない面もある。
- ・個人の食品ロスより、企業（スーパー・コンビニなど）のロスの方が多いと思う。
- ・食品ロスは削減できるがゼロにはならない。生ごみの堆肥化などを地域で進めるべき。
- ・物価高騰により買い控えが進み、家庭での廃棄は減っている。
- ・恵方巻などについては既に対策が進んでいると思う。

<まとめ>

日本では464万トン（令和5年度推計値）もの食品ロスが発生していると推計されており、国民一人あたりに換算すると、年間約37kg、毎日約102g（おにぎり約1個のご飯の量（約110g）に近い量）の食べ物を捨てていることになります。

新居浜市においても、令和5年3月に「にいはま食品ロス削減推進計画」を策定し、食品ロス削減に取り組むなかで、今回のアンケートでは「食品ロス」の削減について、市民の皆さんの意識や意見をお伺いし、今後の食品ロス削減を進めていくための参考とするため、平成31年に実施したアンケートを再度実施しました。

調査結果として、食品ロスについて9割以上の方が「よく知っている」、「ある程度は知っている」と答えており、前回と同様に関心の高さを伺うことができました。

また、削減に向けた取り組みについては、日頃から既に実践されている方が多く、食料を無駄にせず大切にしなければならないということは、多くの方に理解されていると考えられます。

しかしながら、新居浜市が食品ロス削減の取り組みの一つとして進め、「にいはま食品ロス削減推進計画」において成果指標でもある「3010運動」については認知度が低く、7割を超える方が「全く知らない」、「あまり知らない」と答えており、より積極的な情報発信に努める必要があると考えております。

また、毎年実施しております「ごみステーション」に排出された燃やすごみの開封調査では、燃やすごみのうち生ごみに可食部（食品ロス）が例年30～40%含まれています。

このことから、今後も食品ロス削減に向けた啓発の方法を工夫し、より多くの市民の方に食品ロスの削減に向けた取り組みを実施いただける施策を、今回頂いたご意見を参考にしながら考えてまいります。

（担当課：廃棄物対策課）